

Adobe Creative Cloud PDF & 出力の手引き



Adobe Illustrator CC



Adobe InDesign CC



Adobe Photoshop CC



Adobe Acrobat XI Pro



※ Firefoxの内蔵プラグインでは正常に表示されない場合があります。
ファイルをダウンロード後、Acrobat XIまたはAcrobat Readerで表示してください。

目次

データ出力までの流れ	2
------------	---

01 出力のためのデータ管理

アートボードの基本	3
フォントの管理	4
フォント形式について	4
Typekitによるフォントの追加	4
フォント検索・置換	6
環境に無いフォントの処理	7
画像の管理	8
画像形式について	8
配置ファイルのステータス確認	9
配置ファイルの更新と置き換え	10
埋め込まれたファイルの解除	11
配置されたリンク画像の詳細情報	11
カラーマネジメントの管理	12
Bridge CCによる一元管理	12
Adobeアプリケーション間でカラー設定を同期させるには	13
カラー設定の詳細	13
カラープロファイルの埋め込みなしと不一致について	15

02 安全に出力するための最終確認

プリフライトとパッケージ	16
プリフライト	16
パッケージ	18
プレビュー	20
分版プレビュー	20
オーバープリントプレビュー	21

03 ファイル書き出しとプリント

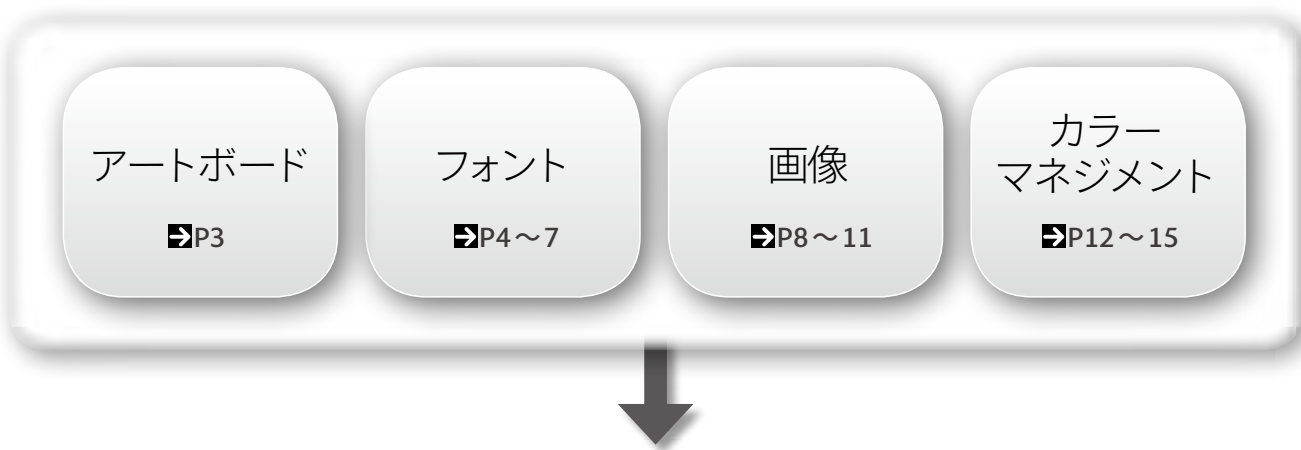
データ書き出しについて	22
PDF書き出しプリセットファイルについて	24
PDF/X最新動向	25
Adobe PDFファイルの書き出し	26
Illustrator書類(.ai)の書き出し	43
プリント	46
プリントダイアログボックス	46
プリント設定の合理化: プリントプリセット	57

データ出力までの流れ

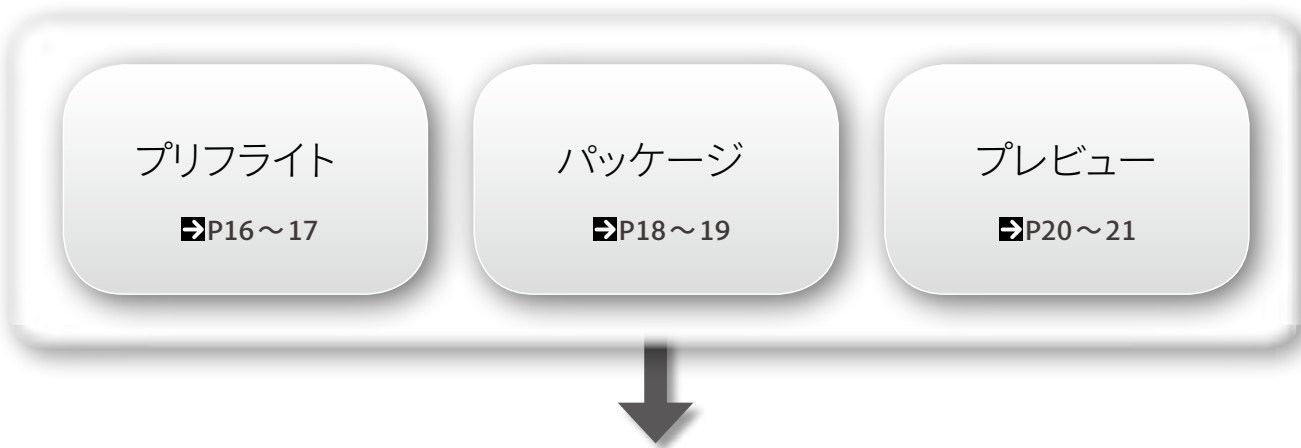
2

本書でサポートするデータ出力までの主な行程です。

01 出力のための データ管理



02 安全に出力するための最終確認



03 ファイル書き出しとプリント

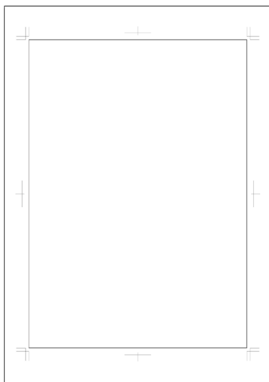




アートボードの基本

本書は、最新環境において正しく出力できることを目的に、気をつけたいポイントを解説しています。

はじめに、データを出力する前の前提として、ドキュメントを作成するにあたり、最新のワークフローに照らし合わせた場合、特に Illustrator では従来とドキュメントを新規作成する際のフローが更新されていますのでまずは解説しましょう。



〔図01〕
従来のアートワークの作成方法。仕上がりサイズよりも少し大きめのアートボードを作成し、その中に仕上がりサイズのパスを描き、トリムマーク(トンボ)作成する。

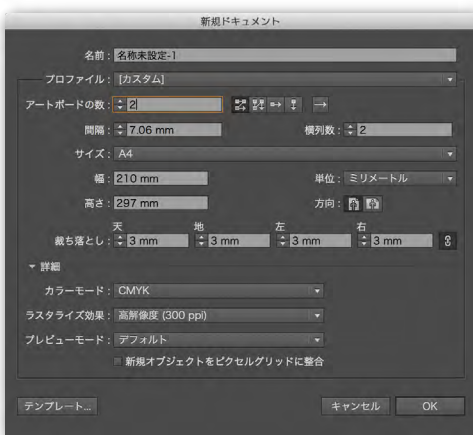
従来、Illustrator では、A4 のチラシを作成する場合、まず新規ドキュメントで大きめのアートボードを設定し、そのアートボード上に仕上がりサイズの矩形を描きます。そしてそのパスに対してトリムマーク(トンボ)を設定し、印刷用のデータとするのが業界のルールでした。〔図1〕CS4以降のバージョンでは、複数のアートボードのサポートと、後述にあるPDFでの出力のフローも確立されてきており、新規ドキュメントの作成時において、「仕上がりサイズ=アートボードサイズ」とするのが自然です。これにより、煩雑になりがちなデータをまとめることができたり、出力における後行程(トンボの設定や面付け)でのトラブルや作業を軽減させることができます。

▶ CS4以降のワークフローに適した新規ドキュメントの作成

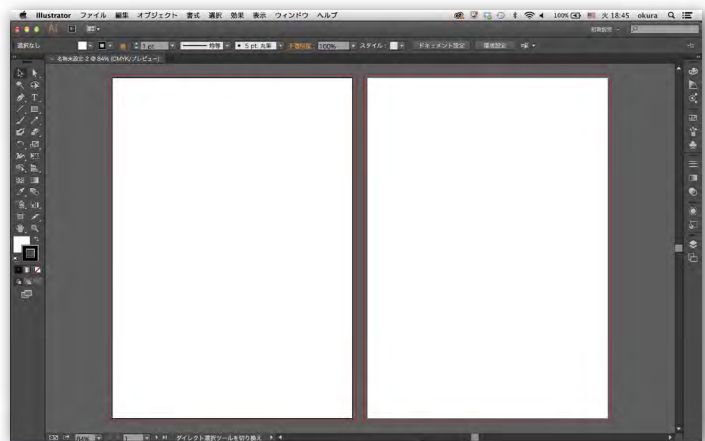
ドキュメントの新規作成を行います。ダイアログで「プロファイル」から「プリント」を選択し、「アートボードの数」は、片面なら「1」両面なら「2」とします。

「サイズ」は「仕上がりサイズ」を指定します。

必ず「裁ち落とし」の設定を行います(一般商業印刷では3mm~5mm)。〔図2〕〔図3〕



〔図02〕
「アートボード=仕上がりサイズ」なら、トンボを設定するためのパスを作成する必要がなくなる。



〔図03〕
赤い外側のラインが裁ち落とし(ドブ)を表すもの。印刷データはこのラインまで図柄があればよい。ただし、複数のアートボードはデータサイズも大きくなるため、チラシやポスター等の両面のデータには最適だが、「複数ページ」としての使用は推奨しない。

Creative Cloudでの フォントの扱いについて 正しく理解しておきましょう トラブルのない出力への 第一歩です

Adobe Creative Cloud で利用できるフォント形式は以下の通りです。

- OpenType フォント
- PostScript フォント
- TrueType フォント



フォント形式について

フォント形式は、大きく分けて3種類に大別できます。PostScriptフォントとTrueTypeフォント、及びOpenTypeフォントです。現在は、印刷を目的としたDTP用のフォントとしてOpenTypeフォントが業界標準となっています。

OpenTypeはアドビとMicrosoftが共同開発したもので、クロスプラットフォームで活用可能なフォントファイル形式です。(同じフォントファイルをMacintoshとWindowsの両方で利用できます) また、広範な拡張文字セットとレイアウト機能を利用でき、それにより豊かな言語サポートと高度なタイポグラフィを実現することができるようになっています。

InDesign CCおよびIllustrator CCは、このOpenTypeフォントに対応しています。「書式」→「字形」で、異体字などを選択することも可能です。



Typekitによるフォントの追加

Typekitは、Creative Cloudに含まれるフォント提供サービスです。

Creative Cloudを使用してフォントをデスクトップに同期し、印刷物などに使用することができます。Typekitは元来Webフォントサービスとして提供されており、Webフォントとしては現在約1,000種類を参照できます。うちデスクトップフォントとして現時点で200ファミリー以上が提供されています(2014年7月時点) ※欧文のみ



Typekitサービス契約:

その他、Typekitフォントの使用に関してはこちらのQRコードからご参照ください。

TypekitはAdobe IDのユーザー名とパスワードを使用してログインすることで使用を開始できます。また、インストール済みであればオフライン環境でもフォントを使用することができます。

※インストールしたフォントはサブスクリプションが有効な限り使用できます。サブスクリプションを解約すると、Typekitから取得したデスクトップフォントは削除されます。作成したドキュメントでフォントを引き続き使用するには、フォントベンダーまたは公認の販売元から必要なライセンスを購入する必要があります。

▶ Typekit フォントを使用したドキュメントの作成

IllustratorやInDesignのパッケージ機能(P18参照)を使用した場合、フォントは通常パッケージに含まれます。

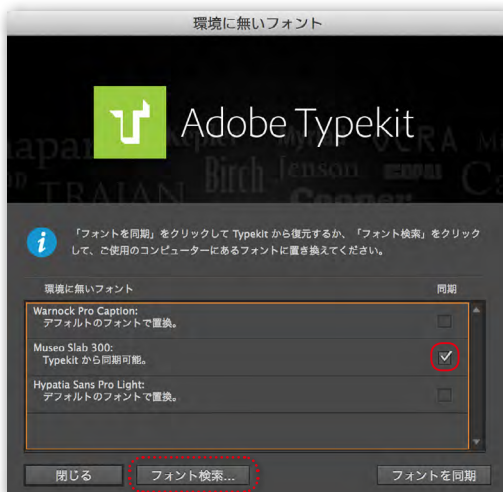
Typekitのサービス使用条件では、デスクトップコンピューターに同期されたフォントをコピーまたは移動することは許可されていません。ファイルを使用する個人は、同様にTypekitからドキュメントで使用されているフォントを入手しておくことでドキュメントを再現することができるようになります。

Typekit のサービス使用条件により、同期したフォントデータを PDF やその他のデジタルドキュメントに埋め込むことは許可されるため、印刷用に作成されたドキュメントでタイポグラフィの精度を保つには、PDF ファイルを作成しデータ入稿などを行うようにしてください。



[図 01]

現在、使用できるデスクトップフォントは約 200 ファミリー。デスクトップで利用できるフォントを抽出する場合は、「使用可能な場所」でデスクトップを選択します。



[図 02]

開いているドキュメントに使用されている 1 つ以上のフォントが見つからない場合、それらのフォントを Typekit Web サイトでも検索します。[図 02] フォントが Typekit にある場合、環境に無いフォントダイアログボックスのフォント名の横のチェックボックスがオンになります。

フォント検索・置換

InDesign CC の場合

Id

InDesign CCでのフォントの確認は、「書式」→「フォント検索」ダイアログボックスを表示させるか、現在の環境で使用できないフォントがある場合は、ドキュメントを開く時に環境に無いフォントリストのダイアログボックスが表示〔前ページ：図02〕されるので、そこから「フォント検索」ボタンをクリックして「フォント検索」ダイアログボックスを表示します。〔図03〕「フォント検索」ダイアログボックスでは、ドキュメント内で使用されているフォント状況の一覧を見ることができます。

「詳細情報」をクリックすると、フォントごとにさらに詳しい情報を得ることができます。例えば、使用できないフォントがドキュメントの何ページ目に存在しているかを知ることができます。ここでは使用できないフォントを使用可能なフォントに検索置換することができますが、置換したフォントの字形によってはレイアウトが崩れる場合がありますので、置換後はレイアウトのチェックが必要となります。

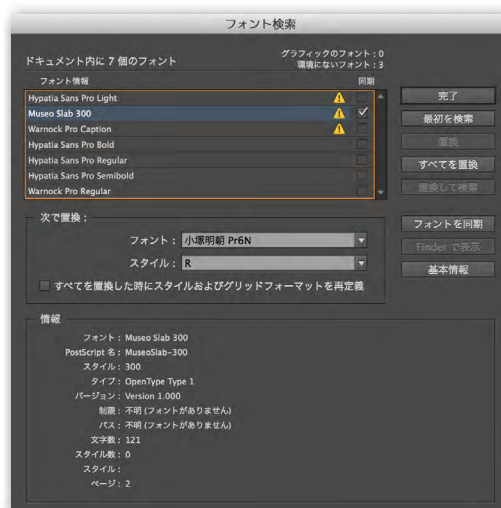
また、InDesign CCに貼り込まれたIllustratorファイルやPDFファイルのデータ内にあるフォントも認識することができます。但し、貼り込みデータの場合、フォント検索はできますがフォントの置換まではできません。そのフォントを取得するか、または元のアプリケーションでグラフィックを開いてフォントを変更することで解決する必要があります。

Illustrator CC の場合

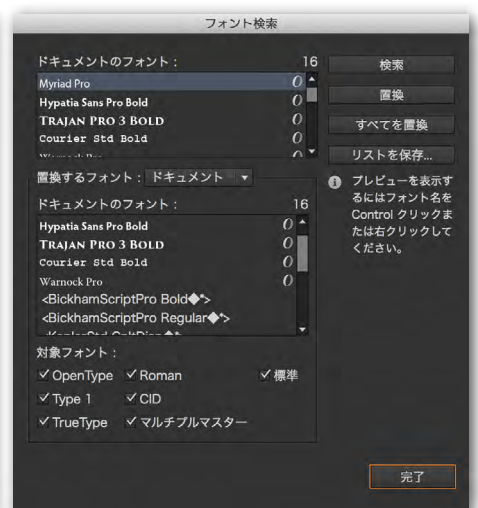
Ai

Illustrator CCでのフォントの確認も同様に、「書式」→「フォント検索」メニューからダイアログボックスを表示させます。「フォント検索」ダイアログボックスでは、フォント名がそのフォントでプレビューされるので、フォントを選択するときに便利です。また、アイコンでフォント形式が表示されます〔図04〕。

環境に無いフォント（インストールされていないかアクティブではないフォント）を含む場合、「フォント検索」ダイアログボックスにフォント名はリストはされますがフォント形式がアイコン表示されません。検索コマンドを使用して、環境に無いフォントを置き換えてください。ただし、フォントを変更するとテキスト組版が変更される可能性があるため、置換後はレイアウトのチェックが必要です。



〔図03〕 InDesign CCの「フォント検索」画面



〔図04〕 Illustrator CCの「フォント検索」画面

環境に無いフォントの処理

InDesign CC の場合



環境に無いフォントを使っているテキストを選択すると、文字パネルやコントロールパネルのフォントファミリーメニューでは、フォント名がブラケット ([]) で囲まれて表示されます。InDesign では、システムにないフォントは使用可能なフォントに置換できます。このような場合は、テキストを選択して他の使用可能なフォントを適用することもできます。置換されたシステムにないフォントは、デフォルトではピンクで強調色表示されます。

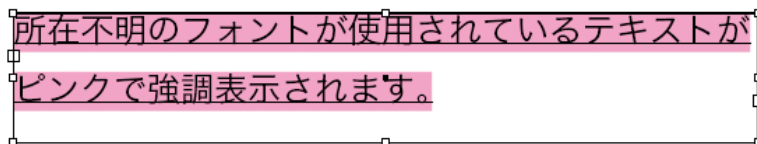
Illustrator CC の場合



システムにインストールされていないフォントを含む書類を開いたり配置したりすると、所在不明のフォントを示す警告メッセージが表示されます。所在不明のフォントは初期設定のフォントで代用表示されます。

書類内の代用表示されたフォントを強調表示するには、「ファイル」→「ドキュメント設定」を選択し、ダイアログボックス上部のポップアップメニューで「書式」を選択します。「代替フォント」を選択して、「OK」をクリックします。

このオプションを選択すると、InDesign 同様、所在不明のフォントが使用されているテキストはピンクで強調表示されます。



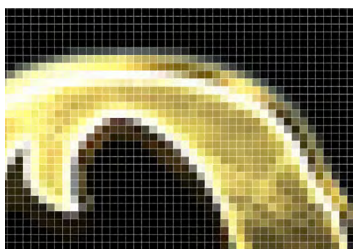


画像形式について

ベクトルグラフィックは、数式的な情報で定義された直線と曲線で構成されており、解像度に依存しないため、サイズを変更しても画質が劣化することはありません。IllustratorやInDesignの描画ツールで作成したオブジェクトは、こちらのベクトル形式です。



ビットマップ画像は、格子状に配置されるピクセルという小さな正方形によって構成されています。ビットマップ画像のピクセル数は固定されていますので、ベクトルグラフィックと異なり解像度に依存します。そのため、画面上で拡大縮小したり、作成時の解像度より高い解像度で印刷すると、ギザギザに表示されたり、細部が失われる場合があります。Photoshopなどのペイントソフトで作成された画像はビットマップ画像です。



画像を扱う上で、まずはじめに気を付けなければならないこと、それは「カラーモードはRGBかCMYKか」です。カラーモードは、使用目的により異なります。一般に、色分解出力やカラープリンターへ出力するのであればCMYKで作業を行います。Webや電子書籍用の素材として使用するならばRGBにします。

次に、「ファイルフォーマットを何にするか」を決めます。プリントが最終出力形態とすると、ビットマップ画像はCMYKのTIFFかPhotoshopのネイティブファイルであるPSD形式、ベクトルグラフィックではCMYKのAI形式が一般的です。また、信頼性が高く、多様性に富んだPDF形式のファイルも配置可能です。Creative Cloudのワークフローでは、PSDやAI形式といったネイティブ形式やPDF形式を有効に活用することで、シームレスで効率的なワークフローを構築し、また創造性に優れた制作をサポートします。

PSD形式：PSD形式の画像は、背景を透過させた状態で配置することが可能です。オブジェクトの周囲にテキストの回り込みを行うこともできます。また、複数の特色チャンネルを含む画像やダブルトーンの画像が配置されていたとしても、正確な出力がサポートされています。Illustrator CCでは、編集可能なアイテムとして、Photoshopのレイヤー、パス、テキストを読み込むことができます。

AI形式 (InDesign CCに配置)：透明機能を含んでいる場合は、透明は維持され、下にあるオブジェクトを透かして見ることができます。また、Illustratorのドキュメントからアートワークをコピー＆ペーストまたはドラッグすることで、InDesign CC上でグループ化された編集可能なオブジェクトとして配置されます。テキストは、文字ツールでは編集できないアイテムとして読み込まれます。

PDF形式：ベクトルグラフィックとビットマップ画像、テキストを同一ファイル上に保持することができるファイル形式です。

多くのファイル形式に対応するInDesign CCおよびIllustrator CCにおいて、最終出力媒体ごとに有効なフォーマットとカラーモードを以下にまとめます。

※従来一般的であったEPS形式は現在推奨していません。

商業印刷 (色分解出力)	ベクトルグラフィック	AI、PDF (すべてCMYKカラーモード)
	ビットマップ画像	PSD、PDF、TIFF (すべてCMYKカラーモード)
低解像度 プリント	ベクトルグラフィック	AI、PDF (すべてCMYKカラーモード)
	ビットマップ画像	PSD、PDF、TIFF (すべてCMYKカラーモード)
Web	ベクトルグラフィック	GIF、JPG、PNG、SVG (すべてRGBカラーモード)
	ビットマップ画像	GIF、JPG、PNG (すべてRGBカラーモード)

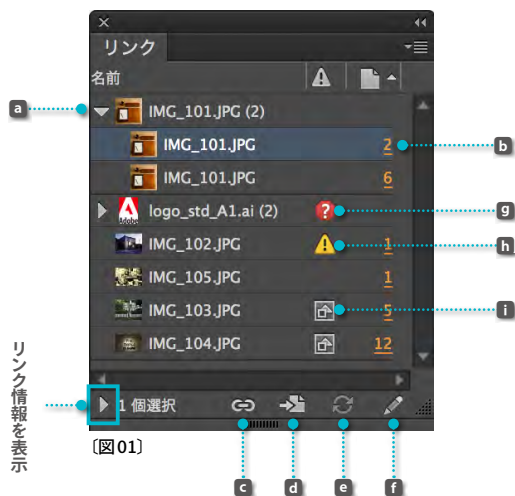
配置ファイルのステータス確認

InDesign CC の場合



ドキュメントに配置された画像ファイルは、リンクパネル〔図01〕に表示されます。リンクパネルには、配置されたファイルのステータスやファイル形式、カラムスペースなどの詳細リンク情報が集約されます。リンクパネルには、リンクされたファイルが、正常なリンク（アイコンなし）、無効なリンク 、変更されたリンク 、埋め込まれたファイル  のいずれかで表示されます。

基本的に、ビットマップ画像やベクトルグラフィックは、埋め込まずにリンクとして配置します。埋め込まれたファイルの編集は困難な場合が多く、また、埋め込まれたファイルの容量が、ドキュメントファイルの容量に加算され大きくなるからです。

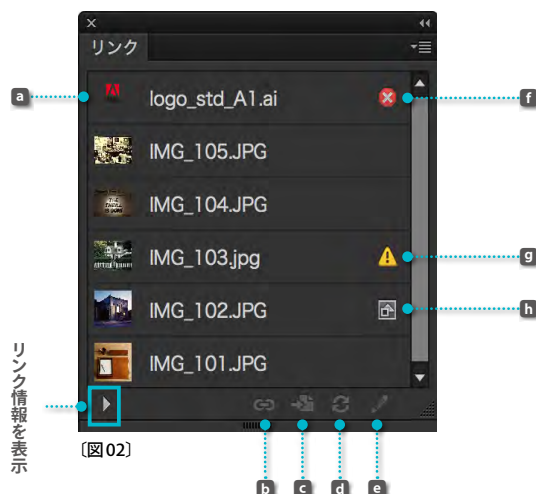


- a リンクファイル名
- b 配置ページ番号
- c 再リンクボタン
- d ファイル表示ボタン
- e リンク更新ボタン
- f 元データ編集ボタン
- g 無効なリンク (元のパスをたどっても見つからないファイル)
- h 変更されたリンク (ドキュメントに配置された後に変更されたファイル)
- i 埋め込まれたファイル (ドキュメントに埋め込まれたファイル)

Illustrator CC の場合



ドキュメントに配置された画像ファイルは、リンクパネル〔図02〕に表示されます。リンクパネルには、配置されたファイルのステータスやファイル形式などの詳細リンク情報が集約されます。リンクパネルには、リンクされたファイルが、正常なリンク（アイコンなし）、見つからないリンク 、修正されたリンク 、埋め込まれた画像  のいずれかで表示されます。リンクパネルを表示するには、「ウィンドウ」→「リンク」を選択します。



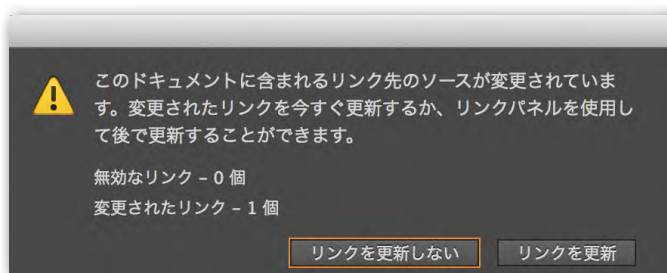
- a リンクファイル名
- b 再リンクボタン
- c ファイル表示ボタン
- d リンク更新ボタン
- e 元データ編集ボタン
- f 無効なリンク (元のパスをたどっても見つからないファイル)
- g 変更されたリンク (ドキュメントに配置された後に変更されたファイル)
- h 埋め込まれたファイル (ドキュメントに埋め込まれたファイル)

配置ファイルの更新と置き換え

InDesign CC の場合



配置されたファイルのステータスが正常な状態ではない場合、更新や置き換えをします。ドキュメントを開く時にステータスが「無効なリンク」や「変更されたリンク」のリンクファイルを含んでいる場合には、リンクの更新ダイアログ〔図 03〕が表示されます。この問題をただちに解決するには、「リンクを自動修復」をクリックします。無効なリンクある場合は、再リンクするかどうか尋ねられ、変更されたリンクがある場合は、自動的に更新されます。また、「修復なし」をクリックして、ドキュメントを開いた後に手動で再リンクや更新をすることもできます。



〔図 03〕

ドキュメントを開いた状態で、無効なリンクや変更されたリンクを再リンク、更新するには、リンクパネルを使用します。

無効なリンクを再リンクするには：

リンクパネルの無効なリンクアイコン  が表示されている 1 つあるいは複数のリンクファイルを選択します。再リンクボタン  をクリックし、検索ダイアログボックスが表示されますので、ファイルを選択したら「開く」をクリックします。

変更されたリンクを更新するには：

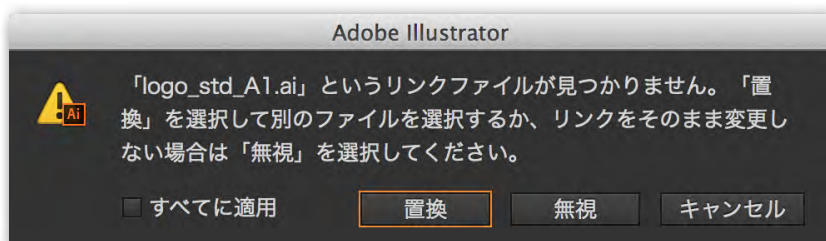
リンクパネルの変更されたリンクアイコン  が表示されている 1 つあるいは複数のリンクファイルを選択します。リンクの更新ボタン  をクリックします。

Illustrator CC の場合



配置されたファイルのステータスが正常な状態ではない場合、更新や置き換えをします。ドキュメントを開く時にステータスが「見つからないリンク」のリンクファイルを含んでいる場合には、置換ダイアログ〔図 04〕が表示されます。

見つからないファイルを探す場合は「修復」、別のファイルを選択する場合は「置換」を選択します。リンクをそのまま変更しない場合は「無視」を選択します。



〔図 04〕

ドキュメントを開いた状態で、見つからないリンクや修正されたリンクを再リンク、更新するには、リンクパネルを使用します。

見つからないリンクを再リンクするには：

リンクパネルの見つからないリンクアイコン  が表示されているリンクファイルを選択します。リンクを再設定ボタン  をクリックし、配置ダイアログボックスが表示されますので、ファイルを選択したら「配置」をクリックします。

修正されたリンクを更新するには：

リンクパネルの修正されたリンクアイコン  が表示されている1つあるいは複数のリンクファイルを選択します。リンクを更新ボタン  をクリックします。

注意

配置ダイアログボックスの「リンク」をオフの状態に配置すると、ドキュメントに配置と同時に埋め込まれます。

埋め込まれたファイルの解除

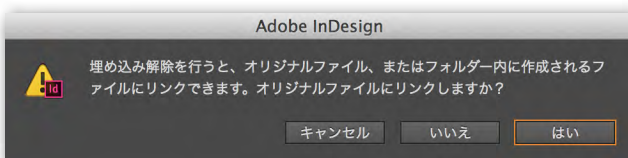
特にInDesignの場合、画像はリンク配置の状態ではファイルを運用することが一般的です。ただ稀に画像が埋め込まれている状態でも、InDesign CC、Illustrator CC共に後から埋め込みを解除することができます。

埋め込みファイルを解除するには：InDesignの場合

リンクパネルの埋め込まれたファイル  を選択します。リンクパネルメニューから「リンクを埋め込み解除」を選択します。ダイアログボックス [図05] が表示され、元のファイルにリンクする場合は「はい」、埋め込まれたファイルから新たに作成されるファイルにリンクする場合は「いいえ」を選択します。ダイアログボックスの「はい」は、配置したときにファイルがあった場所と同じ場所にリンクファイルがある場合にのみ、正常にリンクされます。また、「いいえ」を選択した場合、新たに作成されたファイルが埋め込まれたファイルの替わりとして適切に確認する必要があります。

Illustratorでの埋め込みファイルの解除：

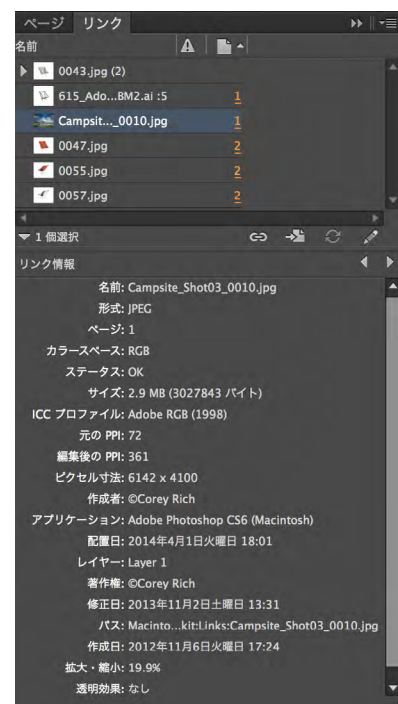
画像の埋め込みを解除すると、常に新しいファイルが作成され、PSD または TIFF ファイル形式で保存されます。ファイルを保存する場所を指定するためのダイアログが表示され、任意の場所に保存します。



[図05]

配置されたリンク画像の詳細情報

InDesign CC、Illustrator CC共に、リンクパネルから配置画像に関する詳細情報を確認することができます。位置やサイズに加え、配置したビットマップ画像のオリジナル解像度「実際のppi」とドキュメント上でサイズ変更された後の解像度「効果的なppi」も確認することができます。特に高解像度出力をする場合に、画像の解像度が十分かどうかすぐに評価できます。また、ファイル形式やカラースペース、カラーマネジメントが有効な場合にはICCカラープロファイルも表示されます。リンク情報を表示するには、リンクパネル左下の右向三角を選択します。



InDesign CCのリンクパネル

カラーマネジメントの設定

12

Adobe Creative Cloud

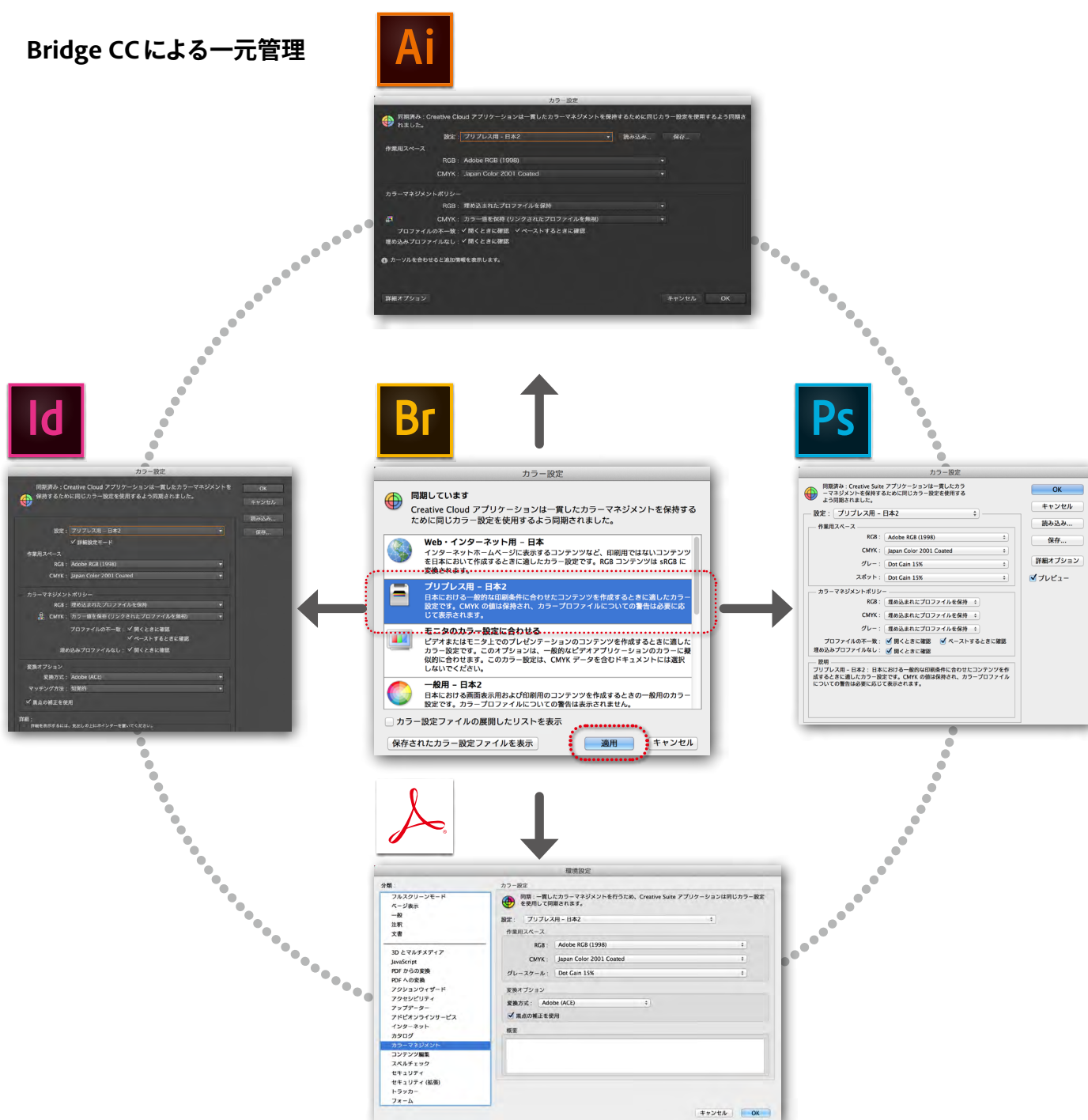
カラーマネジメントを
行うほとんどの
ワークフローには、
あらかじめ提供される
プリセットカラー設定を
使用することを
お勧めします。

Bridge CCによる一元管理

「カラーマネジメントシステム」を使用すると、画像を取り込んだり、ドキュメントを編集してアドビアプリケーション間でやり取りしたり、最終成果物を出力したりするときに、色の外観を保持することができます。DTPワークフローで使用されるCreative Cloud内の主要な各アプリケーションは、カラー設定が同期されるため、RGBカラーとCMYKカラーは一貫して表示されます。つまり、色はどのアプリケーションで表示しても同じ色に見えます。

各アプリケーションが使用するカラー設定の同期は、Bridge CCによって一元的に行われます。

Bridge CCによる一元管理





アドビアプリケーション間でカラー設定を同期させるには

- 1 Bridge CCを開きます。
- 2 他のCreative CloudアプリケーションからBridgeを開くには、そのアプリケーションで「ファイル」→「Bridgeで参照」を選択します。
- 3 「編集」→「カラー設定」を選択します。
- 4 表示された一覧からカラー設定を選択し、「適用」をクリックします。

複数のアドビ製品を使用している場合は、新規または既存のドキュメントで作業する前にカラー設定を同期させることをお勧めします。単一のアドビ製品を使用している場合や、高度なカラーマネジメントオプションをカスタマイズする場合は、特定のアプリケーションのカラー設定を変更します。

カラー設定の詳細

作業用スペース



作業用スペースは、アドビアプリケーションにおける色の定義と編集に使用される中間のカラースペースです。各カラーモデルにはそれぞれ作業用スペースプロファイルが関連付けられます。

RGB：アプリケーションのRGBカラースペースを決定します。一般に、特定の機器のプロファイル（モニタプロファイルなど）ではなく、Adobe RGBまたはsRGBを選択することをお勧めします。

CMYK：アプリケーションのCMYKカラースペースを決定します。すべてのCMYK作業用スペースは機器に依存します。つまり、この作業用スペースは実際のインクと用紙の組み合わせに基づきます。アドビが提供するCMYK作業用スペースは標準の商業印刷条件に基づいています。

カラーマネジメントポリシーのオプション

ドキュメントを開いたり画像を読み込んだりしたとき、カラーマネジメントポリシーによってアプリケーションによるカラーデータの処理方法が決まります。RGB画像用とCMYK画像用にそれぞれ異なるポリシーを選択することができ、警告メッセージが表示されるタイミングを指定することもできます。カラーマネジメントポリシーを表示するには「編集」→「カラー設定」を選択します。

• RGBとCMYK

ファイルを開いたり現在のドキュメントに画像を読み込んだりするときに、色を現在の作業用スペースに変換するために従うポリシーを指定します。次のいずれかのオプションを選択します。

埋め込まれたプロファイルの保持：ファイルを開くときに、埋め込まれたカラープロファイルを常に保持します。このオプションを選択すると一貫したカラーマネジメントが行われるので、このオプションはほとんどのワークフローにお勧めします。ただし、CMYK番号を保持する必要がある場合は例外です。その場合は、「番号を保持/カラー値を保持（リンクされたプロファイルを無視）」を代わりに選択する必要があります。

作業用スペースに変換：ファイルを開いたり画像を読み込んだりするときに、色を現在の作業用スペースプロファイルに変換します。このオプションを選択するのは、特定のプロファイル（現在の作業用スペースプロファイル）をすべての色に対して強制的に使用する場合です。

番号を保持/カラー値を保持（リンクされたプロファイルは無視）：このオプションは、InDesignおよびIllustratorでCMYKに対して使用できます。プロファイルが埋め込まれたCMYK画像を開いたり読み込んだりすると、アプリケーションによってプロファイルが無視され、作成時のCMYKカラー番号が保持されます。ただし、アドビアプリケーションで正確な色を再現するためにカラーマネジメントを使用することもできます。InDesignでは

ポリシーの説明を見るには、ポリシーを選択し、ポリシー名の上にポインタを合わせます。ダイアログボックスの下部に該当する説明が表示されます。

「オブジェクト」→「画像カラー設定」を選択することによって、オブジェクトごとにこのポリシーを無効にすることができます。

オフ：ファイルを開いたり、画像を読み込んだりするときに、埋め込まれたカラープロファイルを無視します。また、新規のドキュメントに作業用スペースプロファイルを割り当てません。このオプションを選択するのは、ドキュメントの作成者によって提供されるカラーメタデータをすべて廃棄する場合です。

プロファイルの不一致

開くときに確認：開くドキュメントに現在の作業用スペース以外のプロファイルのタグが付けられている場合は、常にメッセージが表示されます。初期設定の処理オプションをどの方法にするかのメッセージが表示されます。このオプションを選択するのは、ドキュメントの適切なカラーマネジメントを状況に応じて行うことが必要な場合です。

ペーストするときに確認：コピー & ペーストやドラッグ&ドロップによって色がドキュメントに読み込まれる場合に、カラープロファイルの不一致が生じると、常にメッセージが表示されます。初期設定の処理オプションをどの方法にするかのメッセージが表示されます。このオプションを選択するのは、コピー & ペーストやドラッグ&ドロップする色の適切なカラーマネジメントを状況に応じて行うことが必要な場合です。

埋め込みプロファイルなし

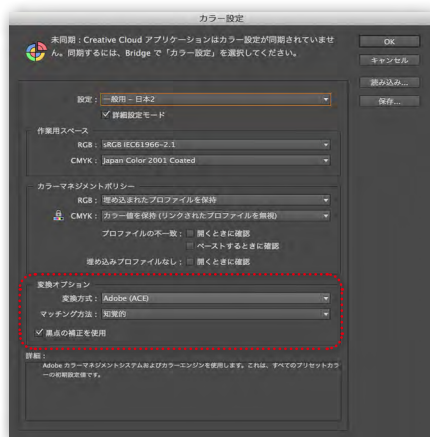
開くときに確認：タグなしドキュメントを開くときは、常にメッセージが表示されます。初期設定の処理オプションをどの方法にするかのメッセージが表示されます。このオプションを選択するのは、ドキュメントの適切なカラーマネジメントを状況に応じて行うことが必要な場合です。

変換オプション

変換方式：カラースペース間で色域をマッピングするために使用する Color Management Module (CMM) を指定します。初期設定の Adobe (ACE) エンジン、ほとんどのユーザーに適しており、必要なすべてのカラー変換を実行できます。

マッチング方法：カラースペース間で色の変換に使用するマッチング方法を指定します。テスト済みの初期設定のマッチング方法（業界標準に準拠）を使用することをお勧めします。日本におけるカラー設定を選択する場合、初期設定のマッチング方法は「知覚的」です。カラー値が変更された場合でも、人の目に色が自然に映るように、色間の視覚的な関係を保護します。このマッチング方法は、色域外の色が多く含まれる写真画像に最適です。これは日本の印刷業界における標準のマッチング方法です。

黒点の補正を使用：出力機器のダイナミックレンジの全範囲をシミュレートすることによって、画像内の暗い部分の詳細が失われないようにします。印刷時に黒点の補正を使用する予定の場合は、このオプションを選択します（ほとんどの状況で推奨）。



プリセットカラー設定の保存場所

ここに保存されたプリセットカラー設定は、すべてのユーザーで使用することができます。

- ▶ **Mac OS X の場合** 「起動ディスク」/ライブラリ/Application Support/Adobe/Color/Settings
- ▶ **Windows の場合** 「起動ディスク」¥Program Files¥Common files¥Adobe¥Color¥Settings

カラープロファイルの埋め込みなしと不一致について

プロファイルが埋め込まれていないか、作業用スペースと一致しない場合は、カラー設定ダイアログボックスで設定しているオプションに従って、アプリケーションによって警告メッセージが表示される場合があります。

警告メッセージはアプリケーション間で異なりますが、共通に次のオプションが用意されています。

1 ドキュメントまたは読み込んだカラーデータを保持する

例えば、ドキュメントにカラープロファイルが埋め込まれている場合はそのプロファイルを使用するか、プロファイルが埋め込まれていない場合は何も処理をしないでそのまま開くか、コピー & ペーストやドラッグ & ドロップされたカラーデータ内のカラー番号を保持するかを選択することができます。

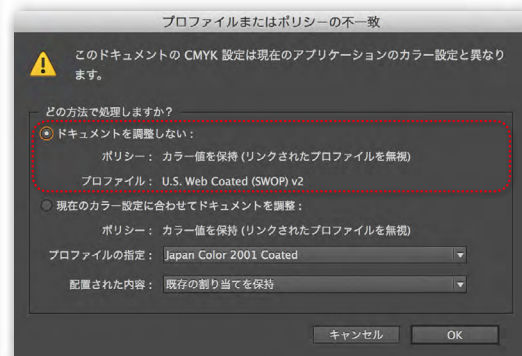
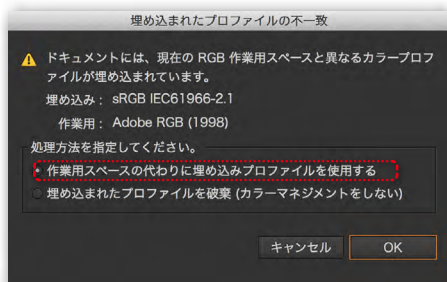
2 カラープロファイルが一致しないドキュメントを開く時

プロファイルを廃棄するか、ドキュメント内の色を現在の作業用スペースに変換するかを選択することができます。 カラーデータを読み込むときは、色の外観を保持するために色を現在の作業用スペースに変換するかどうかを選択することができます。

3 ドキュメントまたは読み込んだカラーデータを調整

例えば、カラープロファイルが埋め込まれていないドキュメントを開くときは、現在の作業用スペースプロファイルを割り当てるか、異なるプロファイルを割り当てるかを選択することができます。

プロファイルの不一致および埋め込まれていない場合の設定例



アドビアプリケーションで、読み込んだグラフィックをカラーマネジメントに対応させるには、保存の際にICC準拠のプロファイルを埋め込みます。ICCプロファイルを埋め込んで保存する際は、PDF(.pdf)、Illustrator(.ai)、Photoshop(.psd)、InDesign(.indd)、TIFF形式そしてJPEG形式が推奨されます。

プリフライトとパッケージ

プリフライト

プリフライトとは飛行機の離陸前の点検する行為からきており、DTPワークフローでは制作ドキュメントに対し問題となりえる項目を検査し、品質をチェックすることを意味します。プリフライトは出力時に行うのが通常ですが、出力ビューローや印刷会社へ入稿するデータが安全かどうか、信頼できるかどうかをチェックするためにも、入稿前にプリフライトを行うようにします。

InDesign CC の場合

Id

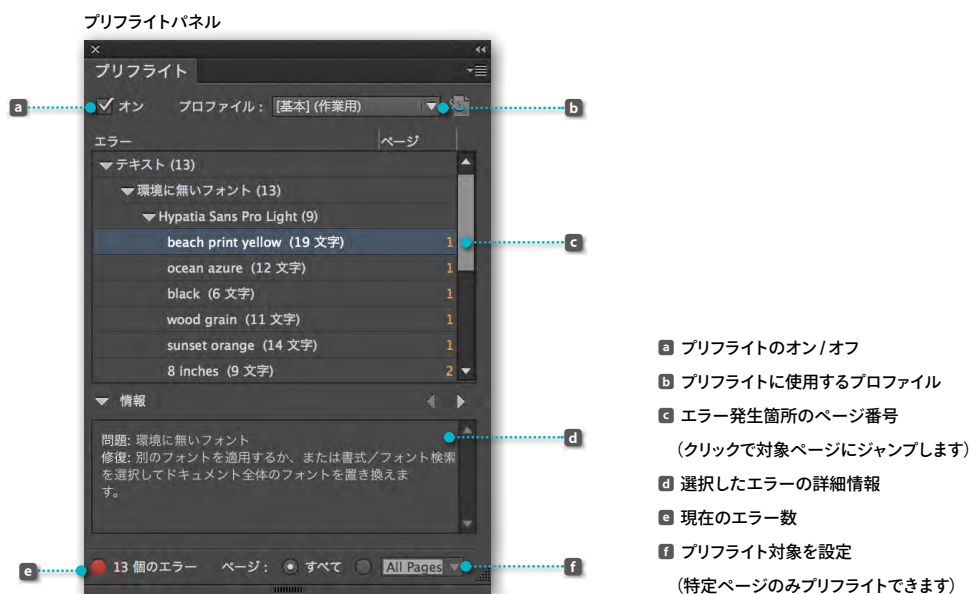
InDesign CS4以降、ライブプリフライト機能が搭載され制作中にリアルタイムでエラーをチェックすることができます。ライブプリフライトは、画面左下に常時表示されています、エラーが無い場合は  が表示され、制作中に問題が発生した場合は  がエラー件数とともに表示されます。

プリフライトパネル

プリフライトパネルは「ウィンドウ」→「出力」→「プリフライト」で表示するか、画面右下の「プリフライトメニュー」から表示します。エラーがある場合はリストにエラー項目が表示されます。ページ番号をクリックすることでエラー箇所へジャンプすることができます。

注意

印刷領域外にあるオブジェクトは、「プリフライト」や「パッケージ」の対象にはなりません。



ライブプリフライトを利用するには、ドキュメント作成の初期段階でプリフライトプロファイルを作成、または指定します。プリフライトプロファイルは、独自に作成するか、プリンターや別のソースから読み込むことができます。デフォルトでは、「基本」プロファイルが新しいドキュメントおよび変換されたドキュメントに適用されます。このプロファイルでは、不明および変更済みリンク、オーバーセットテキスト、環境にないフォントが検出されます。「基本」プロファイルは、編集や削除はできませんが、複数のプロファイルを作成して使用できます。例えば、作業対象のドキュメント別、使用する印刷・出力会社別、ドキュメントの製作段階別にプロファイルを作成し、切り替えて使用できます。プロファイルの入手やプリフライトプロファイルの設定については、印刷・出力会社にお問い合わせください。また、独自に作成したプロファイルを書き出して他のユーザーに提供することができます。書き出したプロファイルは、.idpp という拡張子で保存されます。



プリフライトプロファイルの定義

プリフライトパネルメニューまたはドキュメントウィンドウの下部のプリフライトメニューから「プロファイルを定義」を選択します。

新規プリフライトプロファイルアイコン **+** をクリックし、プロファイルの名前を指定します。

各カテゴリーで、プリフライト設定を指定します。チェックマークを付けたボックスのすべての設定が追加されます。空のボックスは何も設定がないことを示しています。

リンク：不明なリンクや変更済みのリンクをエラーとして表示するかどうかを指定します。

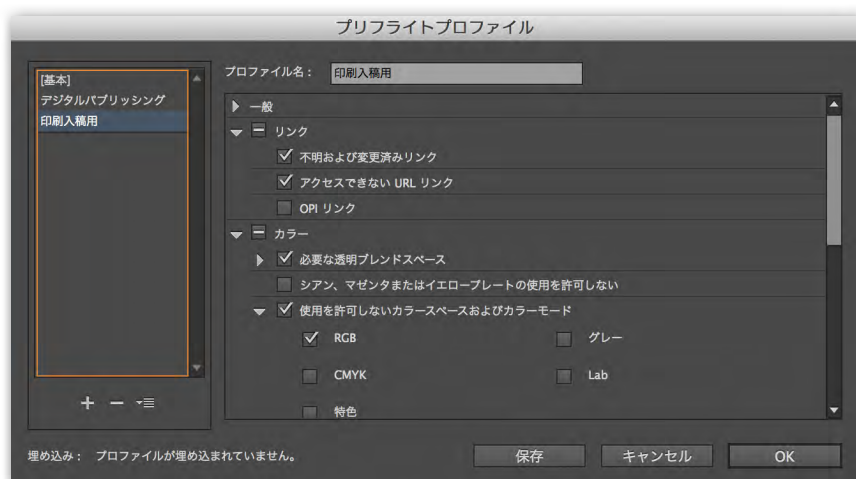
カラー：必要な透明ブレンドスペースを指定し、CMY 色版、カラースペース、オーバープリントなどのアイテムを許可するかどうかを指定します。

画像とオブジェクト：画像の解像度、透明度、線の太さなどのアイテムの条件を指定します。

テキスト：「テキスト」カテゴリーには、無効なフォントやオーバーセットテキストなどのアイテムのエラーが表示されます。

ドキュメント：ページのサイズと向き、ページ数、空白ページ、裁ち落としや印刷可能領域の設定の条件を指定します。

プロファイルごとに「保存」を選択して変更を保存してから、別のプロファイルの作業を行います。ダイアログボックスを閉じてすべての変更を保存するには、「OK」をクリックします。



プリフライトプロファイル

Illustrator CC の場合

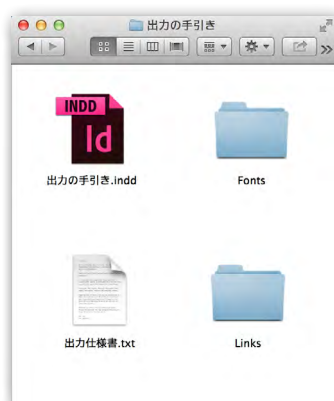


Illustrator CC には、InDesign CC にあるようなプリフライト機能は無く、PDF に書き出した時点で Acrobat によるプリフライトチェックを行います。

Illustrator での作業中は、使用フォントとリンク画像を手動で検査することができます。

使用フォント：使用フォントの確認は、フォントの検索・置換ダイアログボックスで行います。環境に無いフォントがある場合は、検索コマンドで環境に無いフォントを置き換えます。詳しくは、P6 を参照ください。

リンク画像：リンクされた画像のステータスは、リンクパネルダイアログボックス [図 02] で確認できます。見つからないリンク、修正されたリンクがある場合は、リンクを再設定、リンクの更新コマンドでリンクファイルのステータスを修正します。詳しくは、P8「画像の管理」を参照ください。



パッケージ

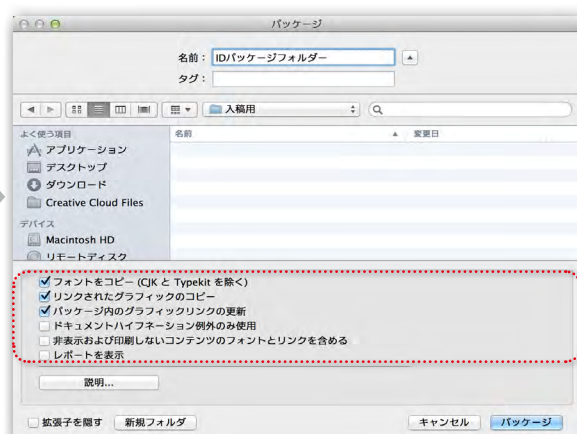
ファイルのパッケージ機能を使うことで、フォントやリンクグラフィックなど、ドキュメント作成に使用したファイルを収集して、印刷・出力会社への入稿時に必要なファイルを簡単に揃えることができます。InDesign、Illustrator 共に、パッケージを実行するには、「ファイル」→「パッケージ」を選択します。

InDesign CC の場合

なお、パッケージを選択すると、先に自動でプリフライトが行われます。もし警告が発生（図 04）したら、「情報を表示」を選択し、問題を解決します。問題がある状態で「続行」を選択してしまうと、不完全なパッケージが生成される可能性があります。



〔図 04〕



注意

InDesignでは、ドキュメント内に貼り込んだグラフィックデータ（例えば、Illustratorファイルなど）内にさらに外部へリンクしている画像データがある場合、ドキュメント内に貼り込まれたグラフィックデータは収集されますが、外部へリンクした画像データまでは収集されません。外部へリンクした画像データは、手動で同梱するようにします。これら外部へリンクした画像は、プリフライトの「リンクと画像」にもリストされませんので注意が必要です。

パッケージダイアログボックス

フォントのコピー（CJKとTypekitを除く）：和文フォントは、アドビ製のものののみコピーされます。また、Typekitフォントも収集されません。Typekitフォントを使用している場合、データを受け取る側も同様にTypekitからドキュメントに使用されているフォントを入手する必要があります。

リンクされたグラフィックのコピー：リンクされたグラフィックのファイルをコピーします（配置されたファイル内にリンクしている画像はコピーされません）。テキストファイルをリンクしている場合は、常にコピーされます。

パッケージ内のグラフィックリンクの更新：コピーされたドキュメントとリンクファイルの関連づけを維持させるために、すべてのリンクをパッケージフォルダの場所に変更します。

ドキュメントハイフン例外のみ使用：InDesignドキュメントの制作環境にあるユーザ辞書が埋め込まれます。これは、他のユーザ辞書（制作環境以外のコンピュータ上にあるユーザ辞書など）が使用されないようにしたいときに便利です。これによって、制作環境以外で改行が変更されてしまうトラブルを回避できます。

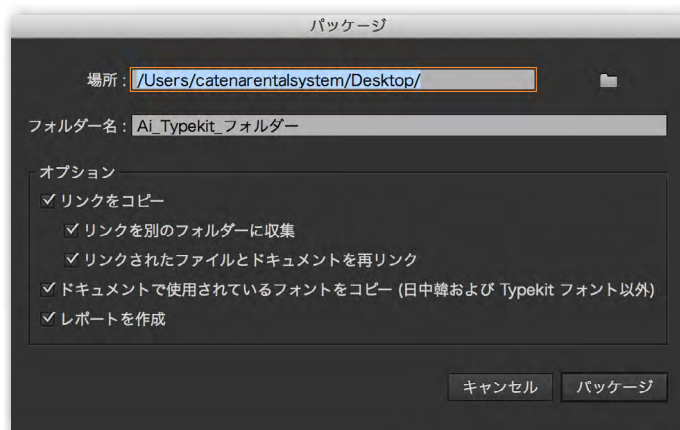
非表示レイヤーのフォントとリンクを含める：非表示レイヤーで使用しているフォントとリンクされたファイルを収集します。

レポートを表示：パッケージ終了後、印刷指示レポートが自動的に表示され、再編集することができます。

Illustrator CC の場合



InDesign 同様、パッケージ機能を使用することができます。



注意

フォントをパッケージする際、警告が表示されます。フォントのコピーに関する許可があるかどうかを確認するには、ライセンス許諾契約書をご覧ください。

場所：パッケージフォルダーを作成する場所を指定します。

フォルダー名：パッケージの名前を指定します。デフォルトでは、フォルダー名は Illustrator ドキュメントの名前が付けられます。

リンクをコピー：リンクグラフィックおよびリンクファイルをパッケージフォルダーにコピーします。

リンクを別のフォルダーに収集：リンクフォルダーを作成して、すべてのリンクアセットをそのフォルダーに保存します。このオプションを選択しない場合、.ai ファイルと同じフォルダー内にアセットがコピーされます。

リンクされたファイルとドキュメントを再リンク：リンクをパッケージフォルダーの場所に変更します。このオプションを選択しない場合、各アセットはパッケージ内に収集されますが、パッケージされた Illustrator ドキュメントでは、リンク元はオリジナルの場所のまま保持されます。

ドキュメントで使用されているフォントをコピー（日中韓および Typekit フォント以外）：フォントファミリー全体ではなく、アートワーク内で使用されている欧文フォントとアドビ製の和文フォントがコピーされます。Typekit フォントはコピーされません。Typekit フォントを使用している場合、データを受け取る側も同様に Typekit からドキュメントに使用されているフォントを入手する必要があります。

レポートを作成：パッケージファイルに付随する概要レポートを作成します。このレポートには、特色のオブジェクト、すべての使用フォントおよび所在不明のフォント、所在不明のリンクに関する概要とすべてのリンク画像または埋め込み画像の詳細が含まれます。

作成したデータが
どのように出力されるかを
事前に確認することができ
ます

PDFへ書き出すことで、Acrobat Proの「出力
プレビュー」でも、InDesign同様に分版の確
認ができます。

分版プレビュー



InDesign、Illustratorの分版プレビューは、ドキュメントがどのように色分解されるか、すべてのプレート（プロセスカラープレートと特色プレート）を評価することができます。今までは、画面やコンポジット出力では判断できず色分解出力して確認していた内容を、色分解出力することなく画面上で確認ができ、また編集可能な状態でプレビューするため、問題がある場合でも素早く手軽に修正することができます。

ここではInDesignの分版プレビューパネルについて解説します。

分版プレビューは、分版パネル〔図01〕で調整します。分版パネルには、ドキュメントで定義されているプロセスカラーおよび特色インキがリストされます。分版プレビューの他に、オーバープリントのプレビューや任意のポイントの総インキ使用量（インキ限定）も確認することもできます。また、「黒の脱色」では、印刷した場合に黒色がどのように見えるかをより正確に視覚化することができます。分版パネルを表示するには、「ウィンドウ」→「出力プレビュー」→「分版」を選択します。



〔図01〕

表示メニュー

分解出力：各々の色版を選択し、表示・非表示を切り替えることができます。オーバープリントおよび透明効果のブレンドが色分解出力でどのように分版されるかをプレビューすることができます。

インキ限定：指定したインキ限界値を超えている領域がハイライト表示されます。グレーの領域はインキ限定の範囲内を表します。ハイライトが密集した領域は、大幅にインキ限界値を超えていることになります。貼り込まれたビットマップ画像やベクトルオブジェクトに対しても有効です。インキ限界値は、印刷会社へ問い合わせてください。

サブメニュー

インキ管理：インキ管理ダイアログを表示します。インキ管理は、特色を制御する場合に便利です。

黒を脱色：画面上の100%不透明の黒インキを、実際の印刷で使用される不透明度が100%ではない黒インキとして表示します。黒インキが他のインキとどのように相互作用しているか評価することができます。「黒を脱色」は、カラーマネジメンツの機能の一部なので、カラーマネジメンツがオンの場合、強制的にオフになります。

単数プレートを黒で表示：色版プレートを単独で表示するときに、実際の色ではなく黒で表示します。黄版など単版では視認性の悪い色版に有効です。

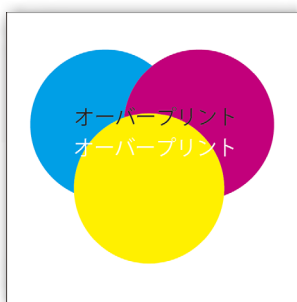


オーバープリントプレビュー

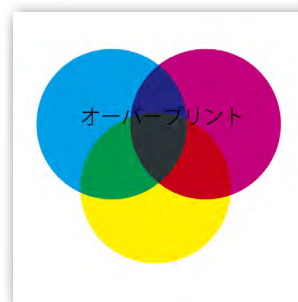
InDesign、Illustratorのオーバープリントプレビューモードでは、色分解出力でブレンド、透明度、オーバープリントがインクとしてどのように見えるか色の重なり具合をプレビューできます。スミ文字の版ずれ防止や、色の重ねに使用されるオーバープリントですが、白のオブジェクトや文字に誤って設定され、予期せぬ印刷事故に繋がることもあるため、安全な出力のためには、プレビューで確認することが重要です。

オーバープリント設定された色がどのように見えるか確認するには、「表示」→「オーバープリントプレビュー」を選択します。この際画面上のプレビューはオーバープリントされた色がどのように印刷されるかをほぼ正確に表示します。

白い文字にオーバープリントが設定されていると、「オーバープリントプレビュー」表示では、文字が消えることが確認できます。



オーバープリントを使用していない
重なり合った円とテキスト



オーバープリントを使用した円とテキスト

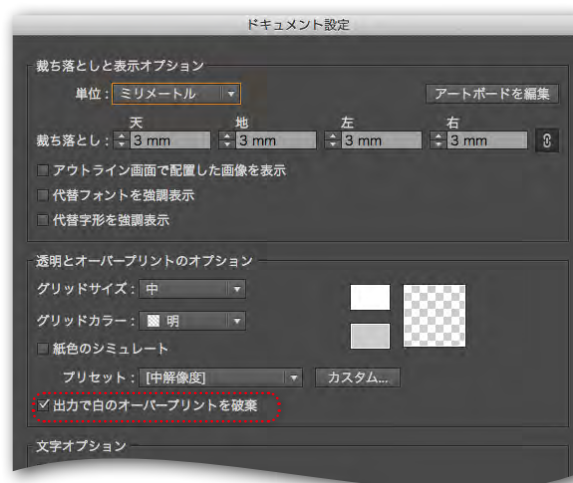
Illustrator CCでは白のオーバープリントによる事故を未然に防ぐための設定がつけました。

この設定は、ドキュメント設定とプリントダイアログでオプションの確認ができます。

白のオーバープリントを破棄

Illustrator で作成したアートワークに含まれる白のオブジェクトに意図しないオーバープリントが適用されることがあります。これは、オーバープリントプレビューを有効にするか、色分解出力しないと分かりません。このために生産プロセスに遅れが生じたり、再印刷が必要になる場合があります。Illustratorでは白のオブジェクトにオーバープリントが適用されると警告が表示されますが、ユーザーが予期できない状況で白のオーバープリントが発生する場合があります。

Illustrator CCから、ドキュメント設定ダイアログおよびプリントダイアログに白のオーバープリントを破棄するためのオプションが追加され、白のオーバープリント属性が出力時に自動で破棄されるようになりました。このオプションは、初期設定でオンになっています。旧バージョンのIllustrator書類をIllustrator CCで開いた場合も有効です。都度確認、修正することなく、安心して印刷および出力機能を使用することができます。



データ書き出しについて

22

幅広い出力のニーズに合うように、
さまざまなファイル形式での保存および書き出しがサポートされています。

InDesign について

Id

「ファイル」メニューから→「書き出し」を選択すると

「書き出し」ダイアログ〔図01〕が開きます。

データ書き出しの基本的なファイル形式として**PDF**を取りあげます。

InDesign CC



書き出し

InDesignからのPDF書き出しは、「ファイル」→「PDFの書き出しプリセット」の利用を推奨します。

Illustrator について

Ai

InDesign CC同様「ファイル」メニューから→「保存」を選択すると

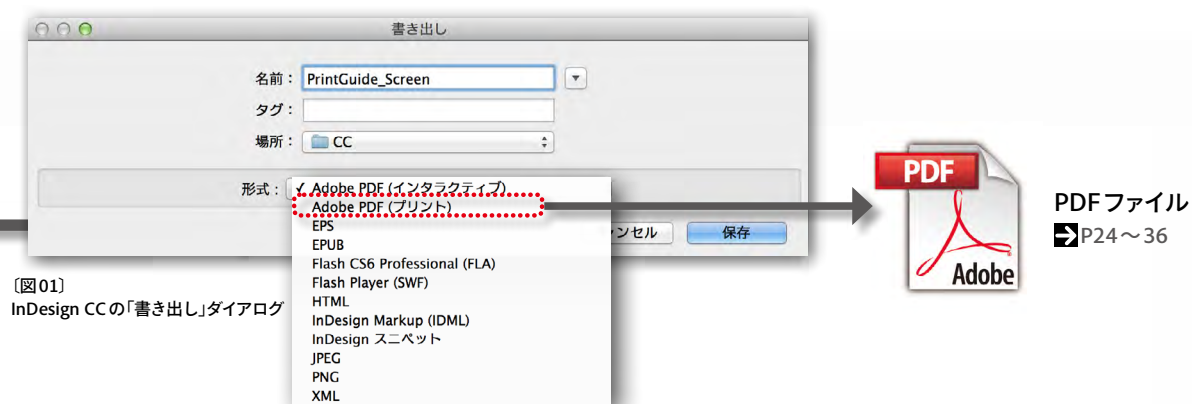
「保存」ダイアログ〔図02〕が開きます。

基本のファイル形式として**AI**、**PDF**の2つを取りあげます。

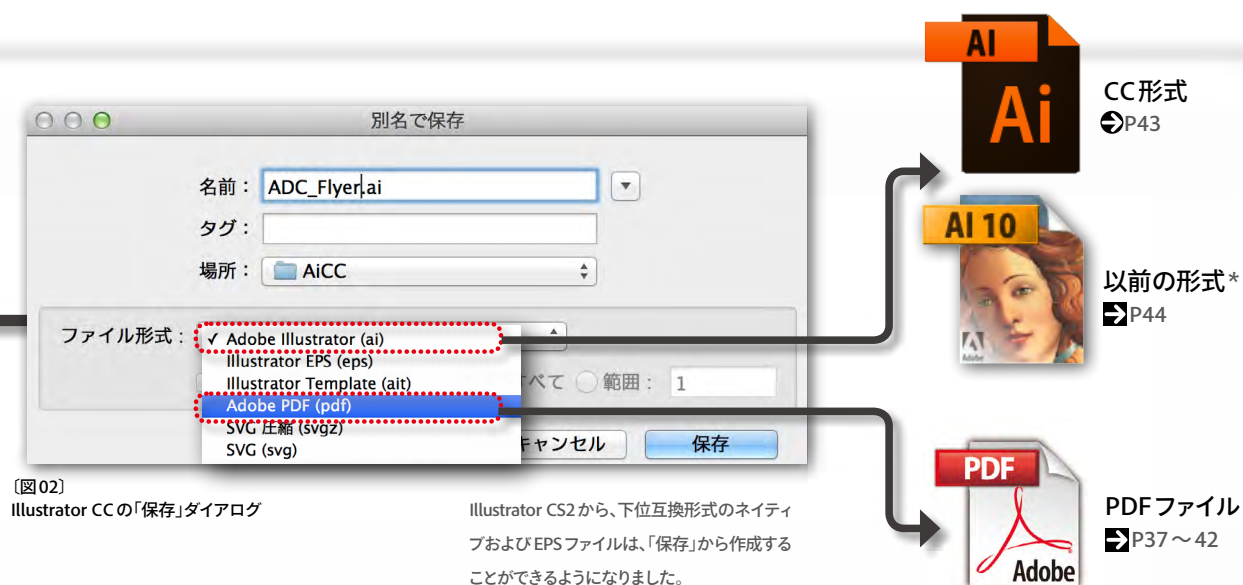
Illustrator CC



保存



〔図 01〕
InDesign CC の「書き出し」ダイアログ



〔図 02〕
Illustrator CC の「保存」ダイアログ

Illustrator CS2 から、下位互換形式のネイティブおよび EPS ファイルは、「保存」から作成することができるようになりました。



PDF 書き出しプリセットファイルについて



PDF プリセット

PDF プリセットとは、PDF 作成処理に影響を与える設定をまとめたものです。これらの設定は、PDF の使用方法に従って、ファイルサイズと品質とのバランスをとるように設計されています。定義済みのプリセットのほとんどは、InDesign、Illustrator、Photoshop などの Creative Cloud アプリケーション間で共有されます。また、独自の出力要件に合わせてカスタムプリセットを作成および共有することもできます。保存される PDF プリセットファイルには、拡張子 .joboptions が付いています。

PDF 文書を作成するときに選択する PDF プリセットは、ドキュメントの用途によって異なります。Creative Cloud に付属のデフォルトでインストールされる PDF プリセットについて、次に簡単に説明します

デフォルトでインストールされる PDF プリセットについて

1 最小ファイルサイズ

「Smallest File Size.joboptions」

このプリセットは、ファイルサイズを小さく維持することにより、アップロードおよびダウンロード時間が最小限に抑えられ、表示が迅速になります。高解像度の出力用には画像解像度が不十分です。すべてのカラーは sRGB に変換されます。

2 高品質印刷

「High Quality Print.joboptions」

このプリセットは、カラーインクジェットやレーザープリンタなど、デスクトップ出力デバイスのテストプリントを含むさまざまな用途で PDF ドキュメントを作成する場合に最適です。このプリセットを使用した場合、カラーは変換されません。

3 プレス品質

「Press Quality.joboptions」

このプリセットは、PDF ドキュメントを高解像度の色分解やデジタルプリントに出力する、またはプリプレスワークフローで使用する場合に使用します。このプリセットでは、ネイティブな（編集可能）透明部分が含まれる PDF 1.4 ファイルが作成されます。このプリセットを使用した場合、カラーは CMYK またはスポットカラーに変換されます。

4 雑誌広告送稿用

「MAGAZINE Ad 2006 JPN.joboptions」

雑誌広告デジタル送稿推進協議会によって策定されたデータ制作ルールに基づいて、雑誌広告送稿用の PDF ファイルを作成します。

5 PDF/X-1a:2001（日本）

「PDFX1a 2001.joboptions」

ハイエンド出力用に設計されたこのプリセットでは、PDF/X-1a 準拠のファイルが作成されます。つまり、ドキュメントをプリントするために必要なすべてのフォントが埋め込まれており、カラーが CMYK またはスポットカラーで、ページ境界とトラップインテントが定義されています。

6 PDF/X-3:2002（日本）

「PDFX3 2002.joboptions」

ハイエンド出力用に設計されたこのプリセットでは、PDF/X-3 準拠のファイルが作成されます。PDF/X-1a と同様に、PDF/X-3 はグラフィックコンテンツ交換における標準です。主な違いは、PDF/X-3 が出力インテントを使用したカラーマネジメントをサポートしている点です。

7 PDF/X-4:2008（日本）

「PDFX4 2008 JPN.joboptions」

透明効果（透明が分割、統合されない）と ICC カラーマネジメントをサポートします。書き出される PDF ファイルは、PDF 1.6 形式になります。画像はダウンサンプルおよび圧縮され、フォントは PDF/X-1a および PDF/X-3 設定と同じ方法で埋め込まれます。信頼できる PDF 印刷出版ワークフローには、最適な PDF ファイル形式としてこちらを使用することをお勧めします。

注意：印刷・出力会社へ送る Adobe PDF ファイルを作成する場合は、あらかじめ出力解像度などの設定をどのようにするかを確認するか、推奨設定を含む .joboptions ファイルを入手してください。印刷・出力会社によっては、PDF 設定をカスタマイズし、独自の .joboptions ファイルを提供している場合があります。

PDF/X 最新動向

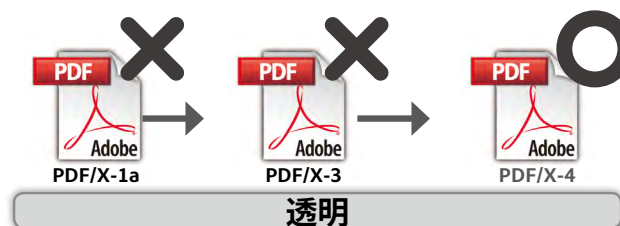


PDF/Xとは

PDF/Xは、印刷上の問題を引き起こす原因となるカラー、フォントおよびトラップ値の多くを除去するためのグラフィックコンテンツ交換用のISO標準規格です。出力のためのデータ制作において、合理的なワークフローを実現することができます。

PDF/X-4とは

PDF/X-4は、透明効果が使用されたRGBワークフローや文字の品質向上を主な目的として、透明効果を保持したままのPDF運用を前提としています。PDF/X-1aやPDF/X-3の後継の規格として生まれました。



PDF/X-4とAdobe PDF Print Engine

最新のRIP技術がAdobe PDF Print Engineです。従来のCPSI系のRIPがPostScriptを処理するのに対して、Adobe PDF Print EngineはPDFをダイレクトに処理することができます。PDFをダイレクトに処理する事で、透明効果の分割処理やRGB画像のCMYK変換などのデバイスに依存した処理もRIP内部で行うことができるようになります。

これは、あらかじめ透明の分割処理やCMYK変換が必要なPDF/X-1aとは全く異なり、デバイス依存のない（Device Independent）PDFを運用することになります。

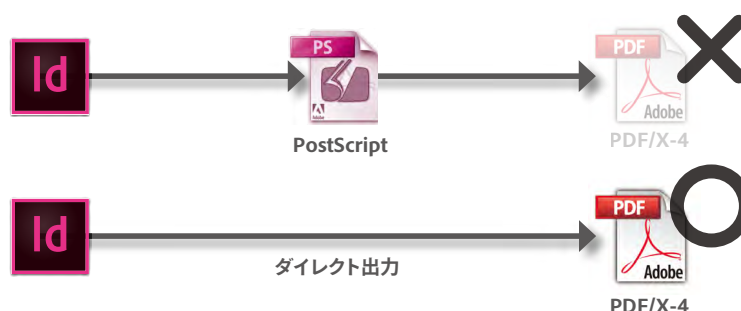
デバイス依存性のないPDFを運用することで、POD（Print On-Demand）運用などの、柔軟な印刷形態に対応でき、デバイスごとに最適化したPDFを作成する事なく、一つのPDFであらゆるデバイスに最適な処理を行うことができます。

このような処理が可能になる技術がAdobe PDF Print Engineであり、デバイス依存のないPDFを規格化したPDF/X-4を運用することで、そのメリットを活かすことができます。

PDF/X-4運用の推奨

今や、PDF/X-4によるハイエンド印刷用のPDF作成を基準としての運用が標準になっています。信頼できるPDF印刷出版ワークフローには、前述のように最適なPDFファイル形式としてPDF/X-4を使用することをお勧めします。全てのケースにおいてPostScriptを介するものではなくPDFのダイレクト出力が推奨運用となります。

ダイレクト出力で安定した高速な運用をCreative Cloud提供のアプリケーションがお手伝いします。





Adobe PDF ファイルの書き出し

InDesign の場合、「ファイル」→「PDF 書き出しプリセット」を選択します。Illustrator では、「ファイル」→「別名で保存」ダイアログで「ファイル形式」から「Adobe PDF (pdf)」を選択します。

PDF 書き出しのためのオプションは幾つかの項目に分類されています。オプションを変更すると、プリセット名に「(変更)」が追加されます。

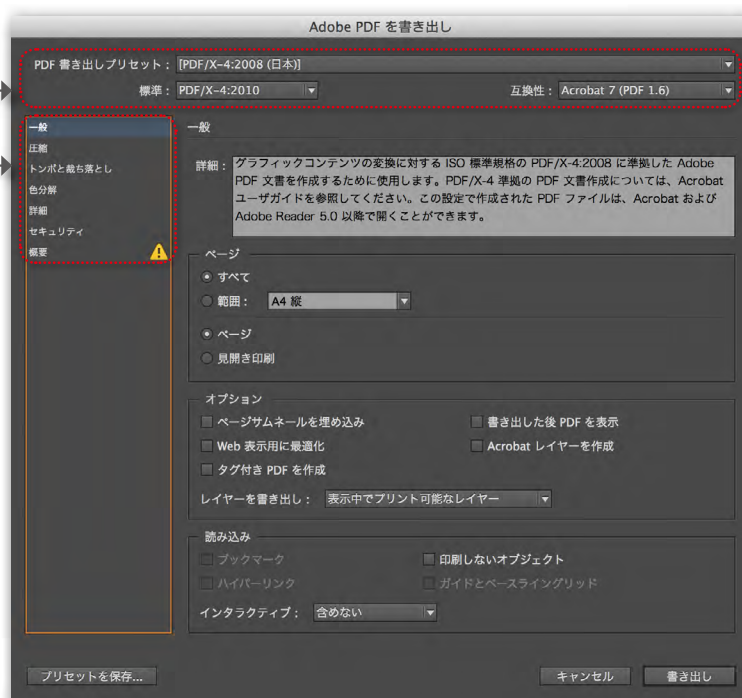
ここでは、書き出しダイアログボックスで設定される各項目について解説します。

ダイアログボックス上部

ダイアログボックス左側の項目リスト

注意

PDF の書き出しは、PDF 書き出しプリセットを使用します。「圧縮」「トンボと裁ち落とし」意外の項目は、明確な意図が無い限りプリセットから変更しないことを推奨します。



InDesign CC の「Adobe PDF を書き出し」ダイアログ

() は Illustrator CC での名称

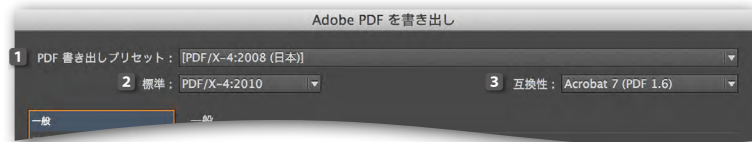
ダイアログボックス上部		解説
▶ 標準 (準拠する規格)		ファイルの PDF/X フォーマットを指定します。
▶ 互換性 (互換性のある形式)		ファイルの PDF バージョンを指定します。
ダイアログボックス左側の項目リスト		解説
▶ 一般		基本的なファイルオプションを指定します。
▶ 圧縮		アートワークの圧縮およびダウンサンプリングを行うかどうか、行う場合はその方法と設定を指定します。
▶ トンボと裁ち落とし		トンボと裁ち落とし、ページ情報などを指定します。
▶ 色分解	▶ 出力	カラーおよび PDF/X 出力インテントプロファイルを PDF ファイルに保存する方法を指定します。
▶ 詳細 (詳細設定)		フォント、透明の分割・統合を PDF ファイルに保存する方法を指定します。
▶ セキュリティ		PDF ファイルのセキュリティを設定します。
▶ 概要 (内容設定)		現在の PDF 設定の概要を表示します。設定内容をテキストファイルとして保存できます。選択したプリセットの設定が適切ではなく、変更が必要な場合は警告アイコンが表示され、説明が表示されます。

InDesign CC の場合



共通領域

InDesign CC の PDF 書き出しダイアログボックスについて更に詳しく解説します。
まずは、どのパネルを表示しても共通して表示される共通領域についてです。



PDF書き出しプリセット: 「ファイル」→「PDF書き出しプリセット」で選択したプリセット名が表示されます。オプションを変更すると、プリセット名に「(変更)」が追加されます。

標準: ファイルのPDF/Xフォーマットを指定します。PDF/X-1a:2001、PDF/X-1a:2003 (CMYKワークフロー用) とPDF/X-3:2002、PDF/X-3:2003 (カラー管理されたワークフロー用)、PDF/X-4:2010をサポートしています。

互換性: ファイルのPDFバージョンを指定します。

PDF/X-4:2010とAcrobat Proでのプリフライトについて

PDF/X-4:2010 は、PDFのレイヤーの指定に関する制限が緩和された最新のPDF/Xフォーマットです。PDFにレイヤーを作成できるようになったほか、カラー画像とグレースケール画像のオプションとしてJPEG2000圧縮が使用できるようになっています。デフォルトの「PDF/X-4:2008」Adobe PDFプリセットを選択すると、PDF/X-4:2010が選択されます。

InDesign CS5.5以降で書き出したPDF/X-4標準のPDFファイルをプリフライトチェックする際にはAcrobat X Pro以上をご利用下さい。Acrobat X Pro以降のバージョンでプロファイルが対応しているため、正しくプリフライトすることが出来ます。

Acrobat 9 ProのプリフライトはPDF/X-4:2008標準のPDFファイルを解析することができるプロファイルが搭載されています。ただし、このプロファイルはPDF/X-4:2010標準のレイヤーを含むPDFファイルに対してエラーとなります。

一般パネル

一般パネルには、プリントダイアログボックスのオプションに似た、基本的なプリントオプションが表示されます。どのPDF属性を書き出すかも指定できます。

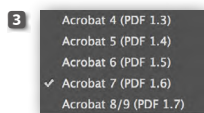
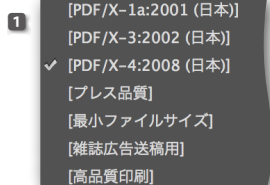
「ページ」セクション

「ページ」セクションは、プリントダイアログボックスの「ページ」セクションとほとんど同じで、「順番」および「マスターページをプリント」オプションがない点のみが異なります。

「オプション」セクション

ページサムネールを埋め込み: 書き出しページごとに1枚のサムネールプレビューを作成するか、「見開き印刷」オプションを選択している場合は、見開きページごとに1つのサムネールを作成します。サムネールはInDesignの開くダイアログボックスまたは配置ダイアログボックスに表示されます。サムネールを追加するとファイルサイズが増大します。

Web表示用に最適化: PDFファイルサイズを減少し、ページ単位でダウンロード(バイトサービング)することでファイルを再構築し、Webブラウザ上で表示速度が高速化するようにPDFファイルを最適化します。このオプションは、PDFを書き出しダイアログボックスの「圧縮」でどのような設定を選択したかにかかわらず、テキストとラインアートを圧縮します。



注意

商用印刷においてページものの場合「見開き印刷」にチェックをいれPDFを書き出すと、後工程で余計な手間が発生してしまう場合もあります。逆に、巻三つ折りや両観音のデータなど「見開き印刷」にチェックを入れたほうが良い場合もありますので、各印刷会社に事前にご相談ください。



書き出した後PDFを表示：新しく作成したPDFファイルを、デフォルトのPDF表示アプリケーションで開きます。

Acrobat レイヤーを作成：InDesign レイヤーはPDF内でAcrobatレイヤーとして保存されます。また、いずれかのトンボの種類を選択した場合は、別個のトンボと裁ち落としレイヤーに書き出されます。書き出したレイヤーは自由に操作でき、Acrobat 6.0以降のユーザであれば、1つのPDFから複数のファイルバージョンを作成することができます。例えば、ドキュメントが複数の言語で出版される予定であれば、異なったレイヤーにそれぞれの言語のテキストを配置しておくことができます。印刷・出力会社ではこれらのレイヤーを表示または非表示にして、異なったバージョンのドキュメントを生成できます。

ブックをPDFに書き出すときに「Acrobatレイヤーを作成」オプションを選択した場合、デフォルトでは同名のレイヤーが結合されます。

タグ付きPDFを作成：書き出し中に、InDesignでサポートしているAcrobatタグのサブセットに基づいて、ストーリーの要素に自動的にタグが付けられます。このサブセットには、段落、基本的なテキストの書式、箇条書き、表が含まれます（PDFに書き出す前に、ドキュメントでこれらのタグを挿入したり修正したりすることができます）。

レイヤー書き出し：表示中のレイヤーおよび印刷しないレイヤーをPDFに含めるかどうかを指定します。レイヤーオプション設定を使用して、各レイヤーを非表示にするか、印刷しないレイヤーとして設定するかを指定します。PDFに書き出すときに、書き出しの対象となるレイヤーが、「すべてのレイヤー」（非表示および印刷しないレイヤーを含む）か、「表示中のレイヤー」（印刷しないレイヤーを含む）か、「表示中でプリント可能なレイヤー」かを指定します。

「読み込み」セクション

ブックマーク：InDesignの目次項目に対応するブックマークを作成します。目次（TOC）レベルは保持されます。また、InDesignドキュメント内のハイパーリンクに対応するPDFブックマークも作成され、AcrobatやAdobe Readerでナビゲートすることができます。

ハイパーリンク：InDesignハイパーリンク、目次項目、および索引項目に対応するPDFハイパーリンクを作成します。ハイパーリンクは、AcrobatやAdobe Readerで完全にサポートされています。

ガイドとベースライングリッド：ドキュメントで現在表示されているマージンガイド、定規ガイド、段組ガイド、およびベースライングリッドを書き出します。グリッドとガイドはドキュメントで使用されている同じ色で書き出されます。

印刷しないオブジェクト：プリント属性パネルで「印刷しない」を選択したオブジェクトを書き出します。

インタラクティブ：すべてのムービー、サウンドおよびボタンを書き出します。

マルチメディア：ムービーやサウンドをPDFにリンクするか埋め込むかを指定します。これは、「インタラクティブ」が選択されている場合にのみ使用可能で、ボタンには影響しません。「すべてをリンク」を選択すると、PDFと同じフォルダに、リンクされたムービーおよびサウンドが格納されます。「オブジェクトの設定を使用」を選択すると、リンクされるか埋め込まれるかは、個々のオブジェクトに適用されている設定によって決定されます。「すべてを埋め込み」を選択すると、オブジェクトの設定に関係なく、メディアが埋め込まれます。

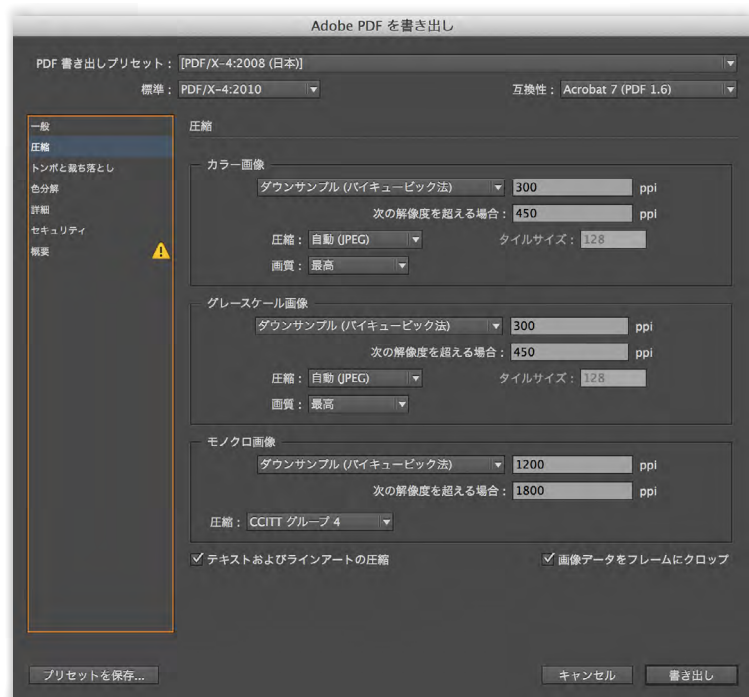
圧縮パネル

圧縮パネルには、PDFファイルのサイズを減らすためのオプションが用意されています。印刷・出力会社とのワークフローで最良な結果を得るためには、ファイルの出力品質が低下しないように、圧縮の使用を制限する必要があります。

印刷・出力会社とのワークフローでは出力品質が優先されます。圧縮を適用する場合、サブサンプリングよりもダウンサンプリングが望ましく、高品質の出力が得られます。

カラー画像：カラー画像を圧縮するには、「ダウンサンプリング」を選択して、ppi値を指定します。ただし、画像がダウンサンプリングされるのは、指定した値の1.5倍を超える解像度を画像が持っている場合のみです。「圧縮」は「自動」に、「品質」は「最高」に設定することをお勧めします。JPEG2000圧縮は、すべてのRIPおよびブリプレスアプリケーションでサポートされているわけではありません。

グレースケール画像：グレースケール画像を圧縮するには、「ダウンサンプリング」を選択して、ppi値を指定します。ただし、画像がダウンサンプリングされるのは、指定した値の1.5倍を超える解像度を画像が持っている場合のみです。「圧縮」は「自動」に、「品質」は「最高」に設定することをお勧めします。JPEG2000圧縮は、すべてのRIPおよびブリプレスアプリケーションでサポートされているわけではありません。



モノクロ画像：1ビット画像を圧縮するには、「ダウンサンプリング」を選択して、最終出力デバイスの解像度を入力します。次に、最も損失が少ない圧縮を行うには、「CCITTグループ4」を選択します。InDesignでは、「CCITTグループ3」および「CCITTグループ4」圧縮オプションがサポートされています。「CCITTグループ3」は、ほとんどのFAX機で使用されているもので、モノクロのビットマップを一度に1行ずつ圧縮します。「RLE」オプションは、損失のない圧縮オプションです。これは、白または黒の大きなベタ領域がある画像の場合に、最良の結果が得られます。

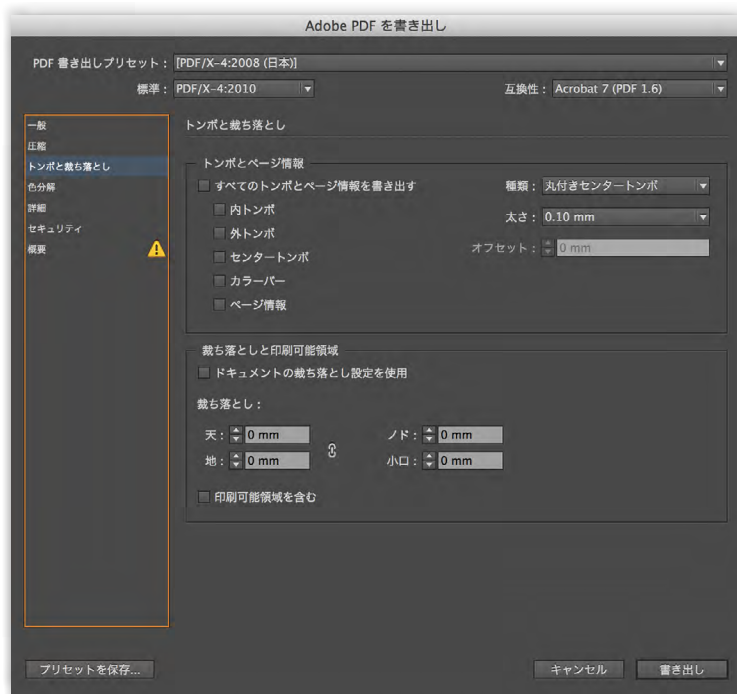
テキストおよびラインアートの圧縮：これはデフォルトで選択されています。選択したままにしておくことをお勧めします。損失のない圧縮が使用されるので、PDFファイルでのこれらの要素の品質には影響はありません。

画像データをフレームにクロップ：このオプションは、フレームの表示可能な部分にある画像データのみを書き出すことで、ファイルサイズを小さくします。ポストプロセッサが（画像を再配置したり裁ち落とししたりするなどの目的で）追加情報を使用する可能性がある場合は、このオプションを選択しないでください。

トンボと裁ち落としパネル

このパネルでは、内トンボや裁ち落とし領域などの、ページ枠を越えて必要な印刷領域を拡大するアイテムを指定します。PDF 書き出しのトンボと裁ち落としパネルは、プリントダイアログボックスのトンボと裁ち落としパネルと同じです。

トンボ、裁ち落とし領域、および印刷可能領域を含めて PDF に書き出す場合は、これらを格納するのに十分な大きさのページサイズを指定してください。



色分解パネル

「色分解」パネルでは、次のオプションを設定できます。「色分解」の各オプションの相互作用は、カラーマネジメントがオンかオフか、ドキュメントにカラープロファイルのタグが付いているかどうか、どの PDF 標準が選択されているかによって異なります。

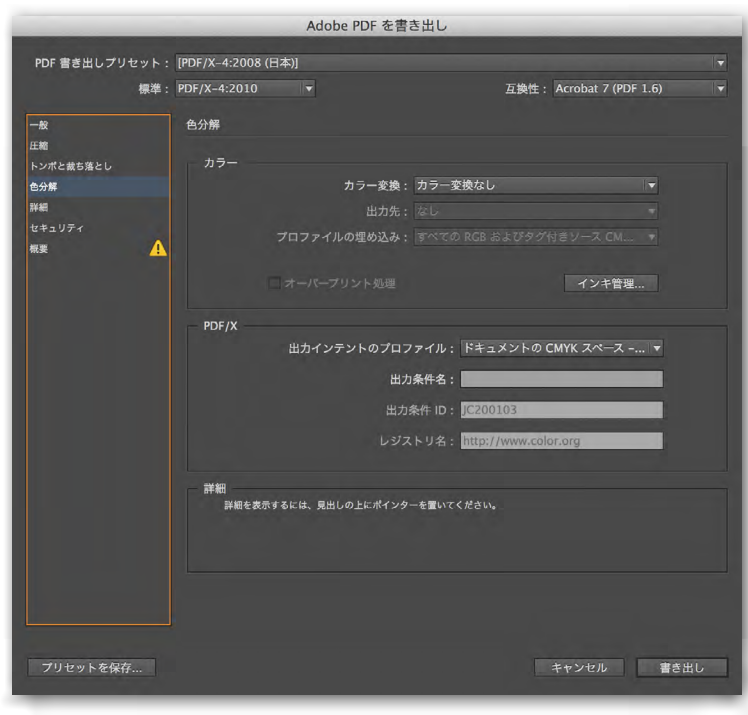
「カラー」セクション

カラー変換：PDF ファイルのカラー情報を表示する方法を指定します。すべての特色情報は、カラー変換を行っても保持されます。プロセスカラーだけが、指定されたカラースペースに変換されます。

カラー変換なし：カラーデータが現状のまま維持されます。PDF/X- を選択している場合のデフォルトになります。

出力先の設定に変換：すべてのカラーが、出力先で選択されているプロファイルに変換されます。プロファイルを含めるかどうかは、「プロファイル埋め込み」で指定します。

出力先の設定に変換 (カラー値を保持)：出力先プロファイルとは異なるプロファイルが埋め込まれている場合にだけ（または RGB カラーであるときに出力先プロファイルが CMYK である場合、またはこの反対の場合）、出力先のプロファイルスペースにカラーが変換され



ます。タグなしカラーオブジェクト（プロファイルが埋め込まれていないもの）とネイティブオブジェクト（ラインアートやタイプなど）は変換されません。カラーマネジメントがオフの場合は、このオプションは使用できません。プロファイルを含めるかどうかは、「プロファイル埋め込み」で指定します。

出力先：使用しているモニタやSWOP標準などの最終的なRGBまたはCMYKの出力デバイス全般が記述されています。InDesignでは、このプロファイルを使用して、「ドキュメント」→「カラー情報」（カラー設定ダイアログボックスの「作業用スペース」セクションで定義されたソースプロファイル）を、対象の出力デバイスのカラー空間に変換します。

プロファイル埋め込み：カラープロファイルをファイルに含めるかどうかを指定します。「カラー変換」の設定、どのPDF/X標準が選択されているか、カラーマネジメントがオンかオフかによって、このオプションで選択できる設定は異なります。

プロファイルを含めない：カラー管理されたドキュメントを作成するときに、埋め込みカラープロファイルを使用しません。

すべてのプロファイルを含める：カラー管理されたドキュメントを作成します。アドビPDFファイルを使用するアプリケーションまたは出力デバイスで、カラーを別のカラー空間に変換する必要がある場合、プロファイルに埋め込まれているカラー空間を使用します。このオプションを選択する前に、カラーマネジメントをオンにし、プロファイル情報を設定しておきます。

タグ付きソースプロファイルを含める：デバイスに依存する色は変更せず、デバイスに依存しない色は最も近い色を保持します。このオプションは、デバイスをすべて補正して、ファイルに含まれる色を指定するためにその情報を使用して、それらのデバイスにしか出力しない印刷・出力会社などに適しています。

すべてのRGBおよびタグ付きソースCMYKプロファイルを含める：埋め込みプロファイルを使用して配置されたオブジェクトなど、タグ付きRGBオブジェクトとタグ付きCMYKオブジェクトのプロファイルを含めます。タグなしRGBオブジェクトのドキュメントのRGBプロファイルも含まれます。

出力先のプロファイルを含める：出力先のプロファイルをすべてのオブジェクトに割り当てます。「出力先の設定に変換（カラー値を保持）」を選択している場合、同じカラー空間にあるタグなしオブジェクトに出力先プロファイルが割り当てられ、カラー番号は変更されません。

オーバープリント処理：コンポジット出力のオーバープリントの外観を維持することで、色分解出力の外観をシミュレートします。「オーバープリント処理」を選択していない場合は、Acrobatで「オーバープリントプレビュー」を選択して、重なるカラー効果を確認する必要があります。「オーバープリント処理」を選択している場合は、Acrobatで「オーバープリントプレビュー」を選択しなくても、特色が各プロセスカラーに変更され、重なるカラーが正常に出力されます。「オーバープリント処理」を選択している場合で、ダイアログボックスの「一般」パネルにある「互換性」で「Acrobat 4 (PDF 1.3)」を選択している場合、ドキュメントのカラーをモニターで直接、ソフト校正し、特定の出力デバイスで再現することができます。

インキ管理：特色をプロセスカラーに変換するかどうかを指定し、他のインキ設定を指定します。「インキ管理」を使用しているドキュメントを変更すると（例えば、すべての特色をプロセスカラーに変換すると）、書き出されたファイルと保存されたファイルに変更内容が反映されますが、設定はPDFプリセットには保存されません。

「PDF/X」セクション

出力インテントのプロファイル名：ドキュメントのプリント条件の特性を指定します。出力インテントプロファイルは、PDF/Xに準拠したファイルを作成するときに必要です。このメニューは、PDFを書き出しダイアログボックスの「一般」パネルにある「標準」で、PDF/X（またはプリセット）を選択している場合にだけ使用できます。カラーマネジメントがオンかオフかによって、このオプションで選択できる設定は異なります。例えば、カラーマネジメントがオフである場合、出力先のカラースペースに一致する出力プロファイルだけが表示されます。カラーマネジメントがオンである場合は、出力インテントプロファイルは、(CMYK出力デバイスの)「出力先」で選択されているプロファイルと同じプロファイルになります。

出力条件名：対象の印刷条件を記述します。このエントリは、PDF文書の受信者に便利です。

出力条件ID：インテントプリント条件の詳細情報へのポインタを示します。ICCレジストリに含まれるプリント条件の識別子が自動入力されます。PDF/X-プリセットまたは標準を使用している場合、Acrobat 7.0 Professional以降のプリフライト機能またはEnfocus PitStop アプリケーション (Acrobatプラグイン) にはファイルが準拠していないので、このオプションは使用できません。

レジストリ名：レジストリの詳細情報が掲載されているWebアドレスを示します。ICCレジストリ名のURLが自動入力されます。PDF/X-プリセットまたは標準を使用している場合、Acrobat 7.0 Professional以降のプリフライト機能またはEnfocus PitStop アプリケーションにはファイルが準拠していないので、このオプションは使用できません。

注意

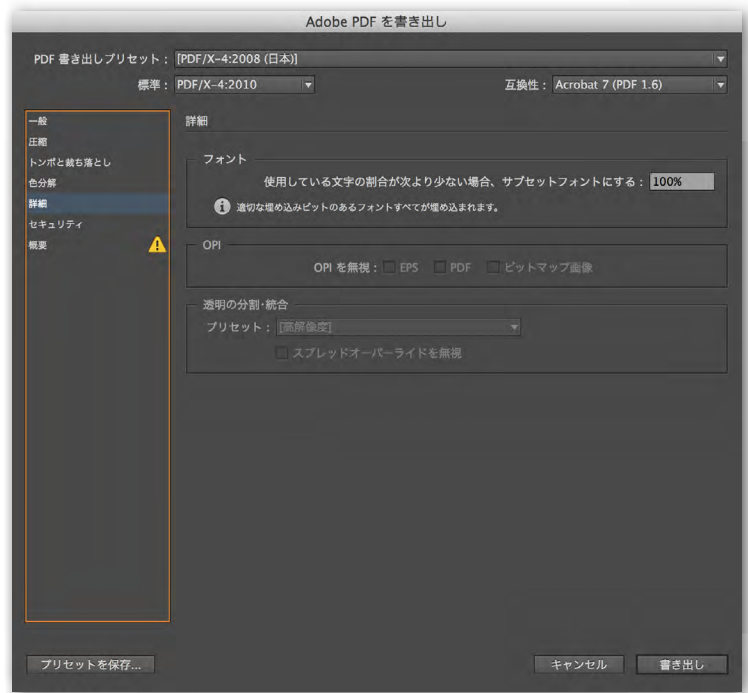
オーバープリント処理は、クライアントレビューや校正に使用する目的で用意されている機能です。最終のハイエンドプリントや分版の生成に使用するPDFでは、オーバープリント処理は有効にしないでください。オーバープリント処理がオンになっている場合、特色は保持されません。

詳細パネル

詳細パネルには、フォントのサブセットの埋め込み、OPI置換用のグラフィックの無視、透明の分割・統合プリセットの選択などのオプションが表示されます。

注意

Acrobat 5 (PDF 1.4) 以降では、アートワーク内の透明部分が自動的に保持されます。そのため、これらの互換性レベルが指定されている場合は「プリセット」および「カスタム」オプションは使用できません。



「フォント」セクション

サブセットの全フォントに対する割合：ドキュメント内で使用されているフォントの文字数に基づいて、完全なフォントを埋め込むしきい値を設定します。ドキュメント内で使用されている文字の割合がどのような条件のフォントに対しても上回っている場合、そのフォントは完全に埋め込まれます。そうでない場合、フォントはサブセットになります。フォントが完全に埋め込まれるとファイルサイズは大きくなります。完全にすべてのフォントを埋め込む場合は0（ゼロ）を入力します。

「OPI」セクション

プリンターやファイルに画像データを送る際、選択した形式と異なる画像を無視し、後でOPIサーバで画像を制御するためのOPIリンク（OPIコメント）だけが保持されます。

「透明の分割・統合」セクション

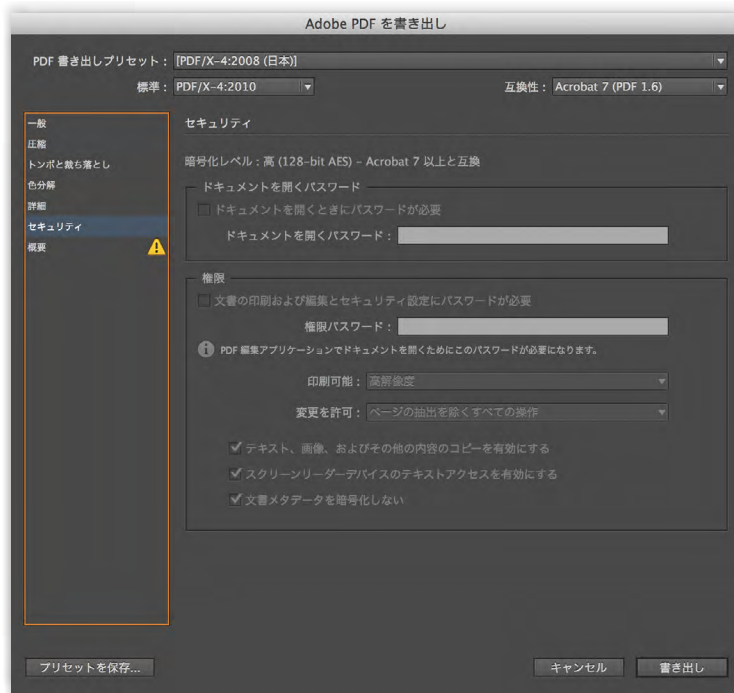
プリセット：ダイアログボックスの「一般」パネルにある「互換性」で「Acrobat 4 (PDF 1.3)」を設定すると、透明の分割・統合のプリセット（またはオプション）を指定することができます。これらのオプションは、アートワーク内の透明効果と一緒にスプレッドを書き出す場合にだけ使用します。

スプレッドオーバーライドを無視：ドキュメントまたはブックにあるすべてのスプレッドに透明の分割／統合設定を適用し、個々のスプレッドにある透明の分割／統合プリセットを上書きします。

セキュリティパネル

PDFを書き出しダイアログボックスの「セキュリティ」パネルでは、次のオプションを設定できます。設定できるオプションは、「互換性」の設定により異なります。「セキュリティ」のオプションは、PDF/X 標準またはプリセットでは設定できません。「Acrobat 4 (PDF 1.3)」オプションでは最低レベル (40-ビットRC4) が使用され、その他のオプションでは最高レベル (128-ビットRC4) が使用されます。「Acrobat 6 (PDF 1.5)」以降では、メタデータを検索できます。下位バージョンの Acrobat では、互換性で上位バージョンが設定されている PDF ドキュメントは開けません。例えば、ドキュメントのセキュリティ設定で、互換性に「Acrobat 7 (PDF 1.6)」を選択した場合、このドキュメントを Acrobat 7.0 以前のバージョンで開くことはできません。

PDF セキュリティは、プリプレスワークフローの遅れの原因になることがあります (ファイルを処理する後工程のスタッフがパスワードを知らなかった場合)。したがって、PDF/X 仕様では、セキュリティ設定は使用できないようになっています。



注意

パスワードを忘れた場合は、文書からパスワードを取得する方法はありません。パスワードを忘れた時のために、パスワードを別の安全な場所に保管したり、パスワードで保護する前バックアップコピーを取っておくことをお勧めします。

「パスワード」セクション

ドキュメントを開くときにパスワードが必要: PDF ファイルを開く際にパスワードの入力が必要になります。

ドキュメントを開くパスワード: PDF ファイルを開くときに入力する必要があるパスワードを指定します。

「権限」セクション

文書の印刷および編集とセキュリティ設定にパスワードが必要: PDF ファイルのセキュリティ設定へのアクセスを制限します。ファイルを Acrobat で開く場合、ユーザはファイルを閲覧できますが、ファイルのセキュリティと権限の設定を変更するには、特定の権限パスワードを入力する必要があります。ファイルを Illustrator、Photoshop または InDesign で開く場合は、ファイルを読み取り専用モードで開くことができないので、ユーザは権限パスワードを入力する必要があります。

権限パスワード: PDF ファイルを保護するパスワードを設定します。このオプションは、「ドキュメントを開くときにパスワードが必要」を選択した場合にだけ設定できます。



印刷可能：PDFドキュメント上で、ユーザに許可する印刷レベルを指定します。

なし：ドキュメントを印刷できないようにします。

低解像度 (150dpi)：150dpi以下の解像度で印刷を許可します。各ページはビットマップ画像としてプリントされるので、プリント速度は遅いことがあります。このオプションは、「互換性」で「Acrobat 5 (PDF 1.4)」以降を選択している場合にだけ使用できません。

高解像度：ユーザが任意の解像度で印刷できるようにします。高度な高品質プリント機能をサポートする PostScript プリンターおよびその他のプリンターに、高品質のベクトル出力を送ることができます。

変更を許可：PDFドキュメント上で許可する編集操作を定義します。

なし：署名フィールドやフォームフィールドへの入力など、ドキュメントをいっさい変更できないようにします。

ページの挿入、削除と回転：ページの挿入、削除、回転、ブックマークとサムネールの作成を許可します。このオプションは、暗号レベルが最高 (128-bit RC4) に設定されている場合にだけ使用できます。

フォームフィールドへの記入と署名：フォームへの入力とデジタル署名の追加ができます。このオプションでは、コメントの追加とフォームフィールドの作成はできません。このオプションは、高レベルの暗号化 (128-bit RC4 または AES) が設定されている場合にのみ使用できます。

注釈、フォームフィールドへの記入と署名：ユーザは注釈の追加、デジタル署名の追加、フォームへの入力ができます。このオプションでは、ページオブジェクトの移動とフォームフィールドの作成はできません。

ページレイアウト、フォームフィールドの入力と署名：ページの挿入、回転、削除、ブックマークとサムネールの作成、フォームの入力、電子署名の追加を許可します。このオプションでは、フォームフィールドの作成はできません。このオプションは、低レベルの暗号化 (40-bit RC4) が設定されている場合にのみ使用できます。

ページの抽出を除くすべての操作：ユーザはドキュメントの編集、フォームフィールドの作成と入力、注釈の追加、デジタル署名の追加ができます。

テキスト、画像、および他の内容のコピーを有効にする：PDFドキュメントの内容のコピーと抽出を許可します。

内容のコピー、および視覚障害者用アクセスを有効にする：視覚に障害を持つユーザが、スクリーンリーダーを使用してドキュメントを判読したりコピーできるようにします。このオプションは、低レベルの暗号化 (40-bit RC4) が設定されている場合にのみ使用できます。

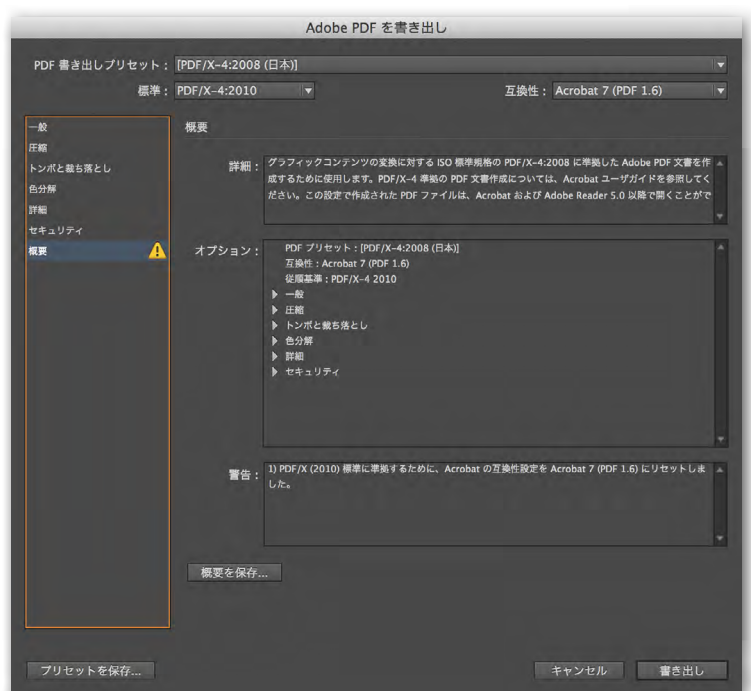
スクリーンリーダーデバイスのテキストアクセスを有効にする：視覚に障害を持つユーザがスクリーンリーダーを使用して文書を判読できるようにしますが、文書の内容をコピーまたは抽出することはできません。このオプションは、高レベルの暗号化 (128-bit RC4 または AES) が設定されている場合にのみ使用できます。

文書メタデータを暗号化しない：PDFの内容のコピーと抽出を許可します。このオプションは、「互換性」で「Acrobat 6 (PDF 1.5)」以降が選択されている場合にのみ使用できます。このオプションを選択すると、ストレージ/検索システムおよび検索エンジンがドキュメントに格納されているメタデータにアクセスできるようになります。

概要パネル

概要パネルには、現在の書き出し設定をまとめたレポートが表示されます。この概要は、保存することができます。保存した概要は、トラブルシューティングを行うときや、同僚や顧客に作業設定を伝えるときに役立ちます。

概要を保存: 概要をテキストファイルとして保存します。保存した概要は、他の人に送ったり、印刷したりアーカイブしたりすることができます。





各パネルのセクションでカスタマイズしたオプションを、初期設定に戻すには Option キー (Mac OS) または Alt キー (Windows) を押しながら「リセット」をクリックします。

重要:

「Illustrator の編集機能を保持」オプションを指定すると、大幅な圧縮とダウンサンプルを行う場合に影響が生じます。ファイルサイズを考慮する必要がある場合は、このオプションの選択を解除してください。

Illustrator CC の場合

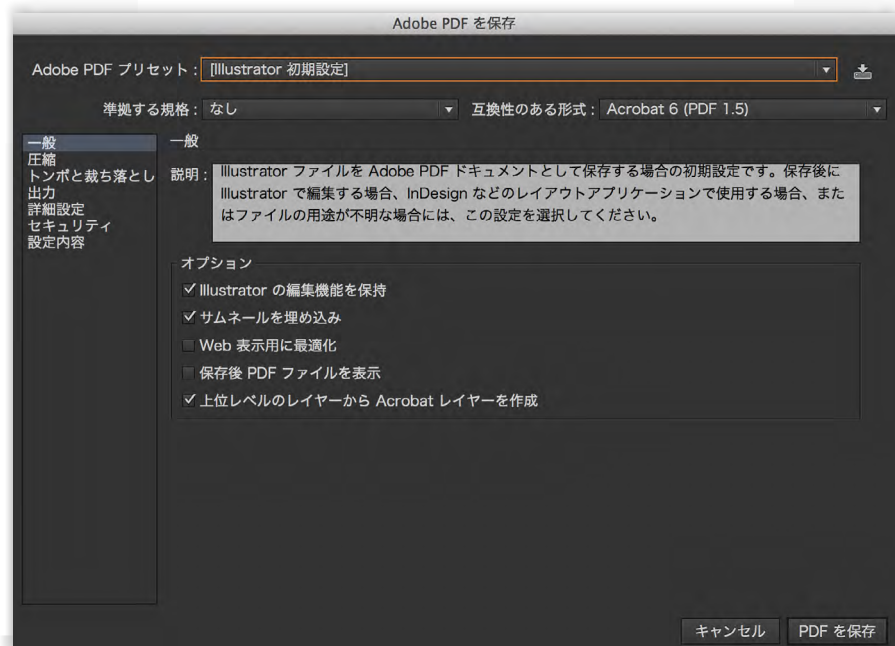
共通領域



InDesign CC 「共通領域」(P27 を参照) と同様

一般パネル

一般パネルには、プリントダイアログボックスのオプションに似た、基本的なプリントオプションが表示されます。どの PDF 属性を書き出すかも指定できます。



「オプション」セクション

Illustrator の編集機能を保持: すべての Illustrator データを PDF ファイルに保存します。Illustrator で PDF を再度開いて編集する場合に選択します。

サムネールを埋め込み: アートワークのサムネール画像を作成します。サムネールは Illustrator の開くダイアログボックスまたは配置ダイアログボックスに表示されます。

Web 表示用に最適化: PDF ファイルを Web ブラウザで高速表示できるように最適化します。

保存後 PDF ファイルを表示: 新しく作成した PDF ファイルを初期設定の PDF 表示アプリケーションで開きます。

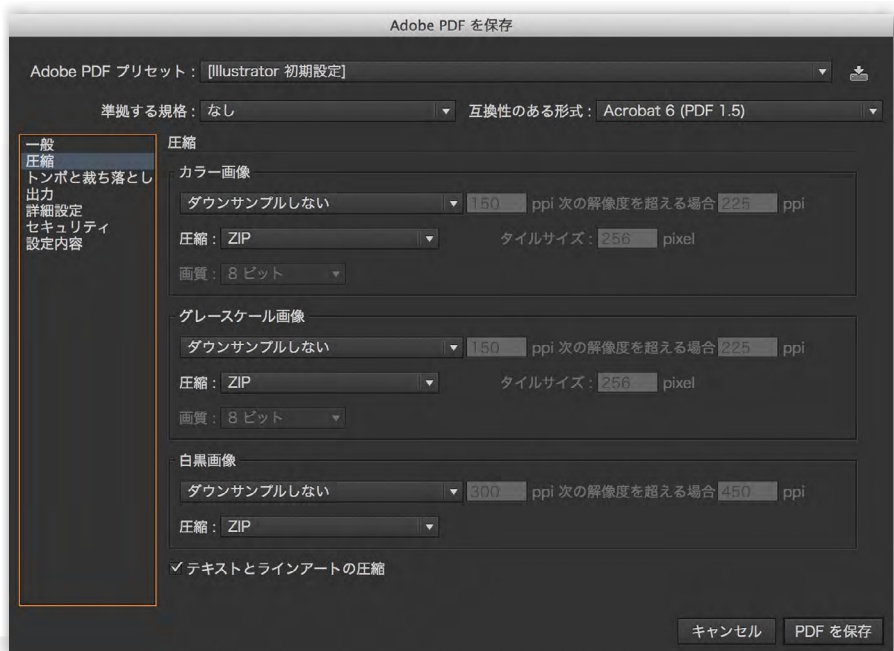
上位レベルのレイヤーから Acrobat レイヤーを作成: Illustrator 上位のレイヤーを Acrobat レイヤーとして PDF ファイルに保存します。これにより Acrobat 6、7、8 のユーザは 1 つのファイルから複数のバージョンのドキュメントを生成できます。このオプションは、「互換性のある形式」が「Acrobat 6 (PDF 1.5)」「Acrobat 7 (PDF 1.6)」および「Acrobat 8 (PDF 1.7)」に設定されている場合にだけ使用できます。

タイリングページから複数ページの PDF を作成: Illustrator ドキュメントの各タイルを別々ページとして PDF ファイルに保存します。



Adobe Creative Cloud 出力の手引き

圧縮パネル

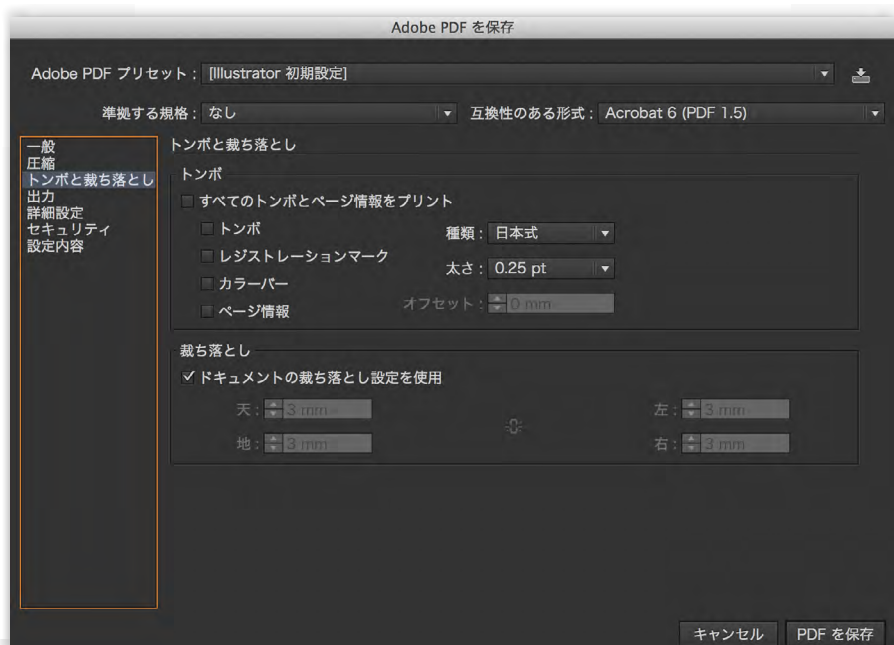


InDesign CC「圧縮パネル」(P29を参照)と同様

トンボと裁ち落としパネル

PDF オプションダイアログボックスの「トンボと裁ち落とし」パネルでは、裁ち落とし範囲の指定と、ファイルへの各種トンボの追加を行います。

裁ち落としとは、アートワークのプリント用バウンディングボックスの外側や、トンボやトリムマークの外側にプリントするアートワークの部分のことを指します。断裁後のページの端まで完全にインキを付けたい場合や、書類のキーラインに画像を収めたい場合は、アートワークに裁ち落としを設定しておくことで、プリント処理で生じる余白の誤差を調整することができます。ドキュメントのサイズを「アートボード＝出来上りのサイズ」にしておくことで、このトンボ裁ち落としの設定が活用できます。(P3参照)



「トンボ」セクション

すべてのトンボとページ情報をプリント：すべてのトンボ（トリムマーク、レジストレーションマーク、カラーバーおよびページ情報）をPDFファイルに指定します。

種類：プリントするページに対して、「西洋式」または「日本式」のトンボの種類を選択します。

トンボ：トリミング領域の四隅にマークを付けPDFの仕上がり領域の境界を示します。

太さ：トンボの線の太さを指定します。

レジストレーションマーク：トンボの外側に色版の位置あわせ用のマークをつけます。

オフセット：アートボードからのすべてのトンボの距離を指定します。トンボはオフセットで指定された領域の端に配置されます。

カラーバー：小さい四角形でカラーを追加し、それぞれの特色およびプロセスカラーを示します。プロセスカラーに変換される特色は、プロセスカラーで表されます。サービスビューロではこれらのマークを使用してプリンターのインキ濃度を調整します。

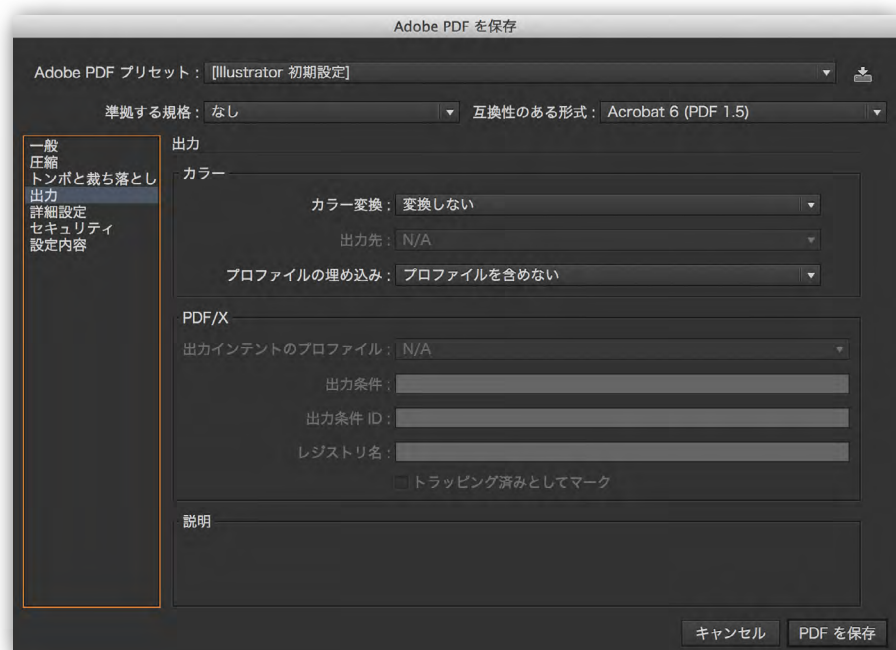
ページ情報：ページのトンボの外側にページ情報を配置します。ページ情報にはファイル名、ページ番号、現在の日時および色版の名前が含まれます。

「裁ち落とし」セクション

天地左右：アートワークの裁ち落としを調整します。リンクボタンが選択されている場合、これらの4つの値は固定の比率で設定されます。つまり、1つを変更すると残りの3つも更新されます。

出力パネル

「出力」パネルでは、次のオプションを設定できます。「出力」の各オプションの相互作用は、カラーマネジメントがオンかオフか、ドキュメントにカラープロファイルのタグが付いているかどうか、どのPDF標準が選択されているかによって異なります。



「カラー」セクション

カラー変換：PDFファイルのカラー情報を表示する方法を設定します。カラーの設定されたオブジェクトをRGBまたはCMYKに変換する場合、ポップアップメニューから出力先のプロファイルを選択してください。すべての特色情報はカラー変換を行っても保持されます。プロセスカラーだけが指定されたカラースペースに変換されます。

変換しない：カラーデータをそのまま保持します。これはPDF/X-3選択時の初期設定です。

出力先の設定に変換：出力先用に選択したプロファイルにすべてのカラーを変換します。プロファイルを出力ファイルに含めるかどうかは、「プロファイルの埋め込み」の設定によって決まります。

出力先の設定に変換（カラー値を保持）：タグ付けされていないコンテンツのカラー値を、出力先プロファイルと同じカラースペースに保持します（出力先プロファイルに変換するのではなく、出力先プロファイルを割り当てます）。その他のコンテンツはすべて、出力先のカラースペースに変換されます。このオプションは、カラーマネジメントがオフになっている場合は使用できません。プロファイルを出力ファイルに含めるかどうかは、「プロファイルの埋め込み」の設定によって決まります。

出力先：使用しているモニターやSWOP標準などの最終的なRGBまたはCMYKの出力デバイスが記述されているプロファイルを指定します。このプロファイルを使用して、Illustratorはドキュメントのカラー情報を対象の出力デバイスのカラースペースに変換します。

プロファイルの埋め込み：カラープロファイルをファイルに含めるかどうかを指定します。

注意

「出力先の設定に変換」を選択していて、出力先がドキュメントプロファイルに一致しない場合は、オプションの横に警告アイコンが表示されます。

「PDF/X」セクション

出力インテントのプロファイル：ドキュメントのプリント条件の特性を指定します。出力インテントのプロファイルは、PDF/Xに準拠したファイルを作成するために必要です。このメニューは、アドビPDFを保存ダイアログボックスでPDF/X（またはプリセット）が選択されている場合のみ利用可能です。このオプションは、カラーマネジメントがオンかオフかに依存します。例えば、カラーマネジメントがオフに設定されている場合、メニューには、利用可能なプリンタプロファイルが表示されます。カラーマネジメントがオンに設定されている場合、メニューにはあらかじめ用意されているほかのプリンタプロファイルに加えて、CMYK出力デバイスである場合には出力先と同じプロファイルがリストされます。

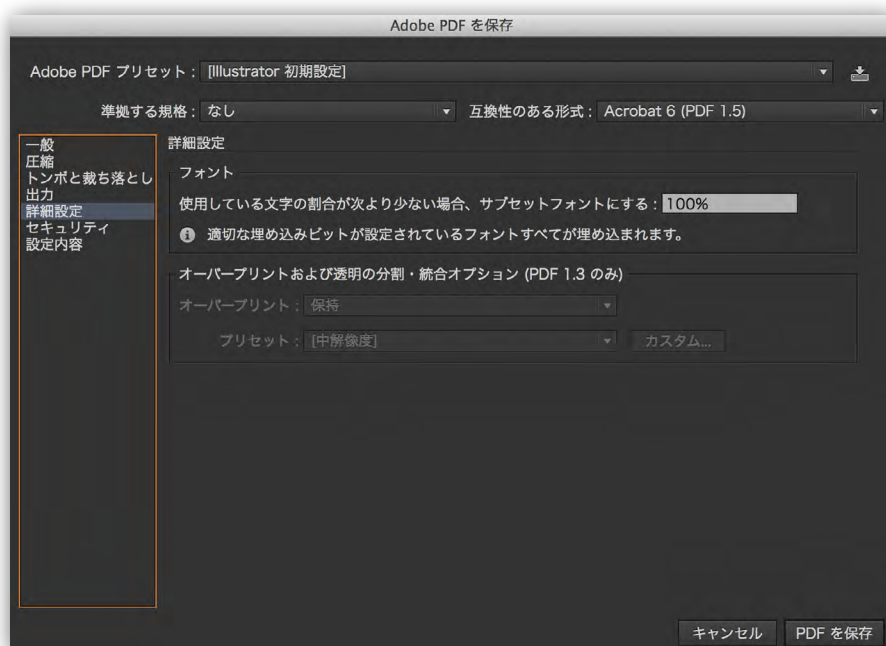
出力条件：想定したプリント条件を記述します。この項目は、PDFドキュメントを受け取る人に役立ちます。

出力条件ID：想定したプリント条件に関する詳細情報のIDを示します。ICCレジストリに含まれるプリント条件の場合、IDは自動的に入力されます。

レジストリ名：レジストリに関する詳細情報のWebアドレスを示します。ICCレジストリ名の場合、URLは自動的に入力されます。

トラップ処理済みとしてマーク：ドキュメントのトラップ状態を示します。PDF/Xに準拠するには、True（選択）またはFalse（選択解除）を指定する必要があります。この要件を満たさないドキュメントはPDF/Xの準拠チェックに失敗します。

詳細設定パネル



InDesign CC「詳細パネル」(P33を参照)と同様

セキュリティ



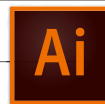
InDesign CC「セキュリティパネル」(P34を参照)と同様

設定内容パネル



InDesign CC「概要パネル」(P36を参照)と同様

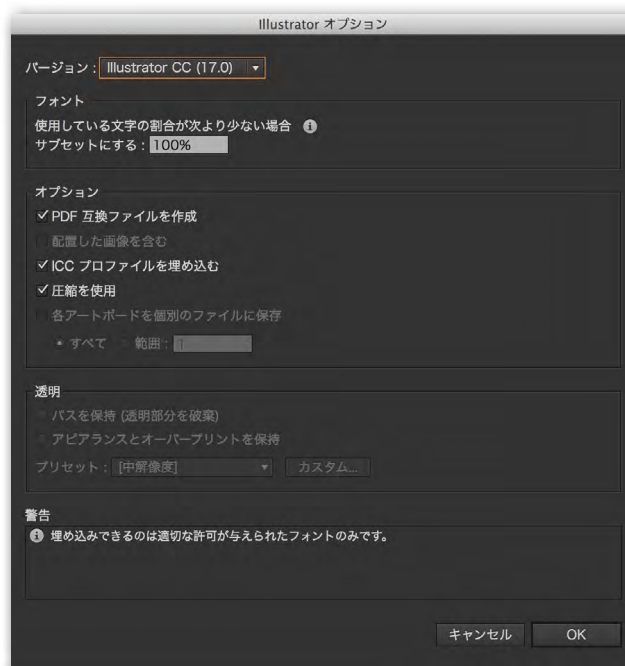
Illustrator 書類 (.ai) の書き出し



「ファイル」→「別名で保存」または「ファイル」→「複製を保存」を選択します。ファイル名を入力し、ファイルの保存先を選択します。

ファイル形式として「Adobe Illustrator (.ai)」を選択して「保存」ボタンをクリックします。

Illustrator オプションダイアログボックスで、必要に応じてオプションを設定し、「OK」をクリックします。



Illustrator CC の保存オプションダイアログボックス

Illustrator CC

解説	
▶ バージョン	バージョンを指定します。Illustrator 3形式までサポートしています。
▶ フォント	フォントの埋め込みを指定します。
▶ オプション	PDFの互換性や配置画像の埋め込みなどを指定します。
▶ 透明	透明効果の分割・統合などの設定を指定します。
▶ 警告	各項目に関連した注意事項の一覧です。

Illustrator CC形式での書き出し

「ファイル」→「別名で保存」を選択します。ファイル名を入力して、ファイルの保存場所を選択します。「Adobe Illustrator (.ai)」を選択して、「保存」をクリックします。

Illustrator オプションで、必要に応じて次のオプションを設定し、「OK」します。

「フォント」セクション

使用している欧文フォントの割合が指定値より少ない場合サブセットにする：書類で使用されている欧文フォントの文字数によって、文字だけでなくフォント全体を埋め込むかどうかを指定します。例えば、1,000文字あるフォントのうち、書類に10文字しか使用されていない場合、フォント全体の埋め込みによってファイルサイズを大きくする必要はないと判断します。※日本語フォントの場合、サブセットされます。

「オプション」セクション

PDF 互換ファイルを作成：Illustrator ファイルに、PDF 形式として使用できるデータを保存します。Illustrator ファイルに、ほかのアドビアプリケーションとの互換性を持たせる場合に、このオプションを選択します。

配置した画像を含む：アートワークにリンクされているファイルを埋め込みます。

ICC プロファイルを埋め込む：書類にカラープロファイルを埋め込み、カラーマネジメントされた書類を作成します。

圧縮を使用：PDF データを圧縮して Illustrator ファイルに保存します。圧縮を使用すると書類の保存に時間がかかるので、保存時間がとても長くなる場合（8～15 分かかる場合）は選択しないでください。

以前のバージョンと互換性のある Illustrator 書類

以前のバージョンと互換性のあるファイルを作成するには、Illustrator オプションダイアログボックスの上部にある「バージョン」オプションを設定します。以前のバージョンの Illustrator 書類では、グラデーション、レイヤー、透明、文字設定など一部の機能がサポートされない場合があるので注意してください。データ書き出ししたファイルを Illustrator の以前のバージョンで開いた場合、Illustrator CC で作成したレイアウトを保持するために、テキストオブジェクトが分割される場合があります。

Illustrator オプションで、必要に応じて次のオプションを設定し、「OK」します。

バージョン：互換性を持たせる Illustrator のバージョンを選択します。

以前の形式ではグラデーション、レイヤー、透明、文字設定など一部の機能がサポートされない場合があるので注意が必要です。

「フォント」セクション

Illustrator CC 形式の Illustrator 書類と同様

「オプション」セクション

Illustrator CC 形式の Illustrator 書類と同様です。ただし、「PDF 互換ファイルを作成」は、Illustrator 10 を選択した場合にだけ使用できます。「圧縮を使用」オプションは Illustrator 10 を選択し、「PDF 互換ファイルを作成」オプションを選択した際に使用できます。「ICC プロファイルを埋め込む」オプションは、Illustrator 9 および 10 形式を選択した場合にだけ使用できます。

「透明」セクション

パスを保持（透明部分を破棄）：透明効果が破棄され、透明が使用されているアートワークの不透明度が 100% に、描画モードが「通常」にリセットされます（このオプションはバージョン 8 以前のバージョンで保存する場合に使用します）。

アピアランスとオーバープリントを保持：透明オブジェクトと重なり合わない部分のオーバープリントが保持されます。透明オブジェクトと重なり合う部分のオーバープリントは分割・統合されます。



Illustrator 10 形式で保存する場合のダイアログ

保存の際、Illustrator (.ai) 以外の形式を選択すると、その形式のファイルを Illustrator で再び開いた時に、一部のデータを読み込めない場合があるので注意してください。

作業中は Illustrator 形式で保存し、完成したアートワークを目的の形式で書き出すことをお勧めします。

CC および CS6 から、CS5 以前の低位バージョンに保存すると、ドロップシャドウ、光彩（外側）といった効果がラスターライズされます。これは、CS6 で 64-bit OS ネイティブに対応したことによる仕様の変更によるものです。低位バージョン保存し、そのまま出力する分には問題ありませんが、データを修正する際には注意が必要です。

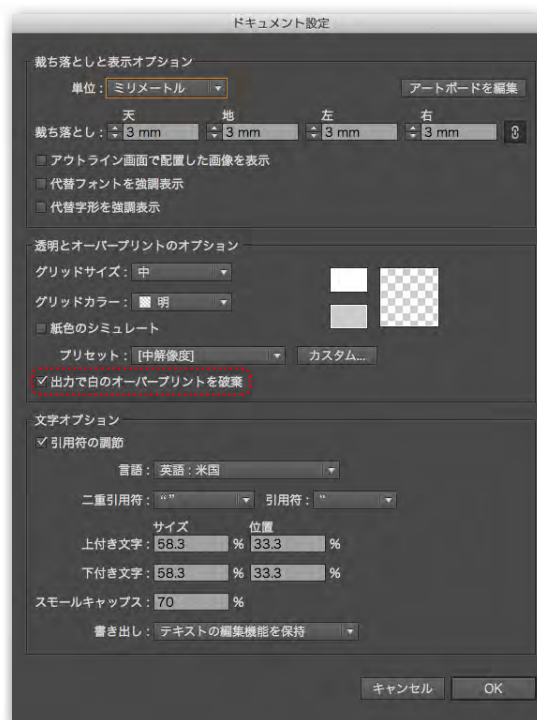
PDFのダイレクト出力とネイティブ貼り込みの推奨

Illustrator のデータを InDesign に取り込む場合、従来は EPS 形式での取り込みを推奨していましたが、「PDF/X-4 の運用」(P25 参照) の説明の通り透明効果を保持したまま (Live Transparency) の PDF を作成するには、InDesign に配置される Illustrator データも透明が分割統合されてしまう EPS 形式ではなく、Illustrator ネイティブ形式で配置する必要があります。

Illustrator CCで追加された出力関連機能

白のオーバープリントを破棄：Illustrator で作成したアートワークに含まれる白のオブジェクトに意図しないオーバープリントが適用されることがあります。これは、オーバープリントプレビューを有効にするか、色分解出力しないと分かりません。このために生産プロセスに遅れが生じたり、再印刷が必要になる場合があります。Illustrator では白のオブジェクトにオーバープリントが適用されると警告が表示されますが、ユーザーが予期できない状況で白のオーバープリントが発生する場合があります。

Illustrator CC から、ドキュメント設定ダイアログおよびプリントダイアログに白のオーバープリントを破棄するためのオプションが追加され、白のオーバープリント属性が出力時に自動で破棄されるようになりました。このオプションは、初期設定でオンになっています。旧バージョンの Illustrator 書類を Illustrator CC で開いた場合も有効です。都度確認、修正することなく、安心して印刷および出力機能を使用することができます。



Illustrator CCの「ドキュメント設定」



プリントダイアログボックス

共通領域

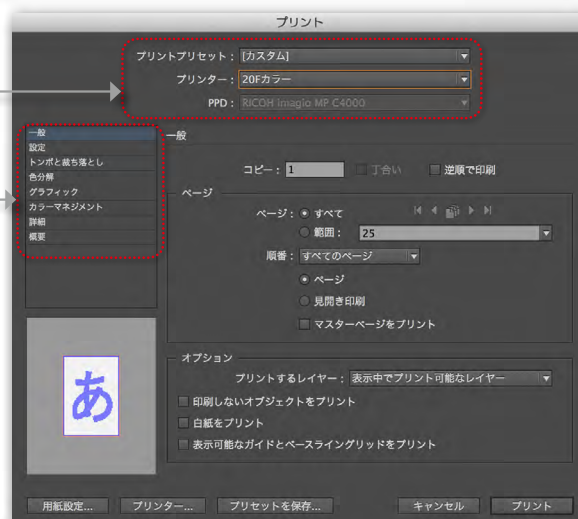
用紙サイズ、トンボと裁ち落とし、カラーマネジメントの出力プロファイル、透明部分の分割・統合設定など、すべてのプリント設定を、プリントダイアログボックスだけで指定できます。この直感的なユーザーインターフェイスを使用して、出力の準備を簡単かつ効率的に行うことができます。このインターフェイスには常にプレビュー画面が表示されているため、現在のプリント設定が選択したメディアにどのように作用するかを視覚的に確認できます。すべての設定を選択した後で、発生する可能性のある問題や注意点が概要画面に表示されるため、費用のかかるエラーを極力削減できます。

プリントを行うには、プリンターのPPD（PostScriptプリンターの場合）またはプリンタードライバー（非PostScriptプリンターの場合）が必要になります。適切なPPDもしくはプリンタードライバーがインストールされていることを確認します。

InDesign CC および
Illustrator CCでは、
プリント処理を合理化し、
確実に、一貫した処理を
実現できます。

ダイアログボックス上部

ダイアログボックス左側の項目リスト



InDesign CCのプリントダイアログボックス



InDesign CC



Illustrator CC

ダイアログボックス上部		解説
▶ プリントプリセット		プリントプリセットを指定します。
▶ プリンター		プリンターを指定します。
▶ PPD		PPDを指定します。
ダイアログボックス左側の項目リスト		解説
▶ 一般		出力するページや枚数などを指定します。
▶ 設定	▶ セットアップ	用紙サイズや拡大・縮小率などを指定します。
▶ トンボと裁ち落とし		トンボと裁ち落とし、ページ情報などを指定します。
▶ 色分解		分版出力やそのスクリーン線数などを指定します。
▶ グラフィック		グラフィックデータの出力品質などを指定します。
▶ カラーマネジメント		出力プロファイルなどを指定します。
▶ 詳細	▶ 詳細設定	OPI、オーバープリント、透明効果の設定を行います。
▶ 概要	▶ 設定内容	現在の設定を一覧表示します。設定内容をテキストファイルとして保存できます。

プリント機能の多くはPostScriptプリンタ記述ファイル(PPD)に含まれる情報に依存しているため、適切なPPDを選択することが重要です。PPDの設定はオペレーティングシステムで行います。PPDがオペレーティングシステムに指定された場所に保存されていることを確認してください。詳細は、使用するオペレーティングシステムのマニュアルなどを参照してください。

「ファイル」メニューから「プリント」でプリントダイアログボックスを開きます。ドキュメントを、プリンターからまたはファイルとしてプリントするかを設定します(使用したいプリントプリセットがある場合は、プリントダイアログボックス上部の「プリントプリセット(プリント設定)」から選択します)。

プリンター: ポップアップメニューで次のいずれかを選択します。ドキュメントをプリントするには、使用する「出力デバイス」を選択します。PostScriptファイルを作成する場合は「PostScriptファイル」を選択します。ドキュメントはプリンターではなくファイルとして出力されます。PDFファイルを作成するには、「Adobe PDF」を選択します。これを選択すると、ドキュメントはプリンターではなくファイルにプリントされます。このオプションは、Acrobatがインストールされている場合にのみ使用できます。

プリントダイアログボックスでは、印刷のオプションがいくつかのパネルとセクションにまとめられています。プリントダイアログボックスで指定した設定は、ドキュメント内に保存されます。

InDesign CC の場合



一般パネル

一般パネルには、ほとんどのアプリケーションのプリントダイアログボックスと共通の制御機能があります。ここでは、出力するページの範囲や見開き印刷の設定など、印刷物の形態や範囲の指定を行います。

コピー: ドキュメントを印刷する部数を指定します。

逆順で印刷: ドキュメントのページの順番を逆に印刷します。

「ページ」セクション

すべて: ドキュメントのページをすべて印刷します。これはデフォルトの設定です。

範囲: 現在のドキュメントで印刷するページの範囲を指定します。範囲はハイフンを使用して指定します。複数のページまたは複数の範囲を指定する場合は、それぞれをカンマまたはスペースで区切ります。

順番: 「すべてのページ」は、ドキュメントのページをすべて印刷します。「偶数ページのみ」または「奇数ページのみ」は、指定した範囲内の該当するページだけを印刷します。これらのオプションは、見開き印刷を設定した場合は使用できません。

見開き印刷: 綴じられた見開きページを一緒に1枚の用紙に印刷します。印刷できるのは、1枚の用紙に1つの見開きのみです。新しく印刷するページが現在選択されている用紙サイズよりも大きい場合は、可能な範囲までが印刷され、用紙サイズに合うように自動的にページが縮小されることはありません。この場合、1枚の用紙に見開きが収まるように縮小印刷するには、「セットアップ」パネルで「拡大/縮小」の「幅に合わせる」オプションを選択してください。また、用紙の方向を横方向に指定することによって、1枚の用紙に印刷されるようにすることもできます。

マスターページをプリント: ドキュメントページではなく、すべてのマスターページを印刷します。このオプションを選択すると「範囲」オプションは使用できなくなります。

「オプション」セクション

印刷しないオブジェクトをプリント: 印刷しないオブジェクトを個別に設定しているかどうかにかかわらず、すべてのオブジェクトを印刷します。

白紙をプリント: テキストやオブジェクトがない白紙ページを含んだ状態でプリントさせたい場合、これを選択すると、指定した範囲のすべてのページを印刷します。このオプションは、分版出力する場合には使用できません。



ページやページ範囲指定のヒント

「11-」は、ページ番号「11」からドキュメントの最後のページまでを指定します。

「-11」は、ページ番号「11」までの、ドキュメント内のすべてのページを指定します。

「1,3-8,11」は、ページ「1」、「3-8」、および「11」を指定します。

「+11」は、ドキュメントの11番目のページを指定します。

「+11」は、ドキュメントの11番目のページまでの、ドキュメント内のすべてのページを指定します。

「+11-」は、ドキュメントの11番目のページからドキュメントの最後のページまでのすべてのページを指定します。

「+1,+3-8,+11」は、ドキュメントで最初のページ、3から8番目のページ、および11番目のページを指定します。

設定パネル

出力する用紙サイズや用紙方向の指定と、拡大縮小の設定を行います。

「用紙サイズ」セクション

選択しているプリンターのPPDに記載されたどのサイズでも選択することができます。選択したプリンターとPPDがカスタム用紙サイズをサポートしている場合は、「用紙サイズ」のメニューに「カスタム」のオプションが表示されます。

用紙の幅、用紙の高さ：カスタムページの場合には、用紙の幅と高さのサイズ設定を行います。ドキュメントの内容、印刷マーク、断ち落としなどのために必要最小限のサイズを決定するには、「用紙の幅」、「用紙の高さ」でそれぞれ「自動」を選択します。デフォルトも「自動」が選択されています。デフォルトより大きな用紙サイズを指定するには、プリンターやイメージセッタの印字不可能領域の境界を超えない範囲で必要な値を入力します。

方向：ほとんどの場合、「ファイル」→「ドキュメント設定」コマンドで指定したページの方向と、プリントダイアログボックスの「セットアップパネル」で指定した紙の方向は、縦方向でも横方向印刷でも一致しています。見開きページを印刷する場合は、1枚の紙に見開きの全ページが収まるように用紙サイズと方向（縦または横置きなど）を確認する必要があります。

オフセット：プリント画像の左側の空白部分のサイズを指定します。例えば、「20ポイント」と入力すると、右方向に20ポイントずれたところからページが印刷されます。

ページの間隔：連続用紙に印刷する場合の、ページとページの間隔を指定します。

幅と高さを入れ換え：用紙とページ内容の向きをいっしょに変える場合にこれを選択します。「オフセット」オプションとともに使用すると、フィルムや用紙の使用量を効率的に配置できる場合があります。

「オプション」セクション

ここでは、拡大／縮小指示のほかに、「タイル印刷」と「サムネール印刷」を指定でき、ページの内容がどのように印刷されるかを確認できます。

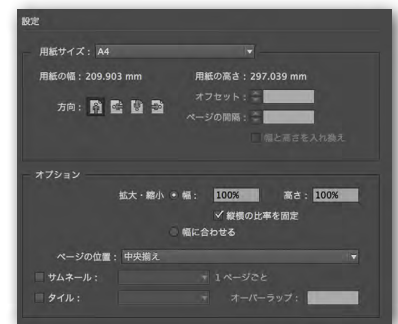
拡大／縮小：ドキュメントの現在の縦横の比率を維持するには、「縦横の比率を固定」を選択します。縦横の比率を維持しない場合は、このオプションの選択が解除されていることを確認します。続いて、「幅」と「高さ」ボックスに、1～1000%の範囲で数値を入力します。「縦横の比率を固定」を選択している場合、片方の値を入力すれば、もう一方の値も自動的に置き換えられます。デフォルトは100%です。

幅に合わせる：ドキュメントを自動的に拡大／縮小印刷する場合に使用します。このオプションがチェックされると、選択したPPDで定義されている印刷可能領域によって自動的に計算される拡大／縮小率が表示されます。但し、「タイル」が選択されていると「幅に合わせる」は使用できません。

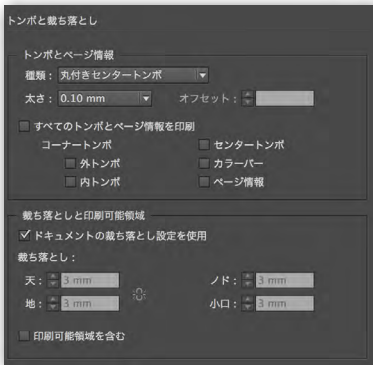
ページの位置：ページ位置を変更する際に使用します。プルダウンメニューから希望する位置を選択します。デフォルトでは「中央揃え」が選択されています。

サムネール：(1ページ中) 1つの用紙に複数のページを配置する場合に、サムネールで印刷します。サムネールは、ページの構成と内容を確認するのに便利です。用紙にページが最も適切に収まるように、用紙方向が自動的に調整されます。

タイル：ドキュメントをプリンターで使用可能な用紙サイズに合わせて、分割して印刷します。



「ドキュメント設定」ダイアログボックスで定義したページサイズと、印刷する用紙サイズを混同しないようにします。ページサイズがA4でも、トンボや裁ち落としの幅が必要ならば、A4サイズよりも大きいエリアを指示しなければなりません。印字可能な用紙サイズは、選択したプリンターのPPD (PostScriptプリンタの場合) またはプリンタドライバ (非PostScriptプリンタの場合) によって異なります。



注意

「西洋トンボ」を選択すると、内トンボは「オフセット」で指定している位置に印刷され、外トンボは、「裁ち落とし」で指定している位置に印刷されます。指定した値によっては、外トンボと内トンボの位置が逆転する場合もあります。日本国内での印刷では、西洋トンボを使わず「丸付きセンタートンボ」「丸なしセンタートンボ」を使用することをお勧めします。

トンボと裁ち落としパネル

このパネルでは、ページ境界線の外側に印刷される様々な記号を選択することができます。すべてのマークをオンにしたり、裁ち落としの量も指定できます。

「トンボとページ情報」セクション

種類：トンボの種類を選択します。デフォルトは「丸付きセンタートンボ」です。

オフセット：「西洋トンボ」を指定した場合のみ、印刷する用紙に対して、ドキュメントの座標値（左上隅が起点）を変更することができます。

太さ：トンボの線の太さを選択します。デフォルトは0.10mmに設定されています。

すべてのトンボとページ情報を印刷：このオプションを選択すると、内トンボ、外トンボ、センタートンボ、カラーバー、ページ情報など印刷マークがすべて選択されます。

内トンボ：最終の仕上がり（ドキュメントのページサイズ）で、断裁される位置の指定を追加します。外トンボを合わせて使用することによって二重トンボを指定できます。

外トンボ：外トンボの位置は「裁ち落とし」で設定できます。内トンボと組み合わせて使用の場合はL字型のラインになります。

センタートンボ：カラードキュメントで別の色分解出力した各版と見当を合わせるために使用します。レジストレーションマークともいいます。

カラーバー：CMYKのインキとグレーの階調（10%ずつ増加）を表す小さなカラーの四角形を追加します。印刷・出力会社は、カラーバーを使用して印刷機のインキ濃度を調整します。

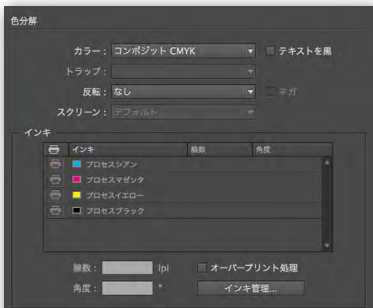
ページ情報：用紙またはフィルムの各シートに、ファイル名、ページ番号、現在の日時、色版名を印刷します。

「裁ち落としと印刷可能領域」セクション

ドキュメントの裁ち落とし設定を使用：ドキュメント設定アップダイアログボックスで指定された裁ち落とし領域を使用してプリントします。

裁ち落とし：トンボの幅を四辺単独で指定することができます。トンボの幅を均等に拡張するには、「すべての設定を同一にする」アイコンをクリックします。

印刷可能領域を含む：ドキュメント設定ダイアログボックスで定義された印刷可能領域を使用してプリントします。



色分解パネル

このパネルでは、コンポジットまたは分版出力の指定、カスタムでのスクリーン線数、およびスクリーン角度の指定を行います。「色分解」が選択されていると、出力するインキを指定したり、特色インキをプロセスインキに変換するかどうかを設定できます。

カラー：ドキュメントのコンポジットカラーがどのようにプリンターに送信されるかを設定します。コンポジットカラーモードは、ラスター画像、およびInDesign CC上で作成されたオブジェクトにのみ適用されます。透明オブジェクトと重なり合わない配置されたグラフィック（EPS、PDFなど）には適用されません。ポップアップメニューには、次のオプションがあります。

コンポジットの変更なし：元のドキュメントのすべてのカラー値を維持して、指定したページのフルカラーのデータをプリンターに送信します。このオプションが選択されていると、「オーバープリント処理」は使用不可になります。

コンポジットグレー：指定したページのグレースケールのデータをプリンターに送信します。例えば、色分解をしないでモノクロプリンターで印刷する場合などに使用します。

コンボジットRGB：指定したページのフルカラーのデータをプリンターに送信します。色分解をしないでRGBカラープリンターで印刷する場合などに使用します。

コンボジットCMYK：指定したページのフルカラーのデータをプリンターに送信します。色分解をしないでCMYKカラープリンターで印刷する場合に使用します。このオプションはPostScriptプリンターでのみ使用できます。

色分解 (InDesign)：InDesign CC側で分解出力する時に指定します。

色分解 (In-RIP)：RIPに搭載されたIn-RIP機能により、RIP側で分解出力する時に指定します。

テキストを黒：作成されたテキストのカラーが「なし」または「紙色」またはカラー値が白と等しくなければ、すべて黒で印刷します。

トラップ：ウィンドウメニューのトラッププリセットでトラップを設定している場合、InDesign CCにてトラッピングを行うことができます。また、Adobe In-RIPトラップをサポートしているPostScript 3対応の出力機を使用することも可能です。

反転：膜面の指定を行います。

ネガ：ポジかネガの指定を行います。

スクリーン：コンボジットモードでは、デフォルトか、選択されているPPDに記載された解像度のいずれかを選ぶことができます。色分解 (InDesign) または色分解 (In-RIP) では、選択されているPPDが対応している最適な出力線数と解像度のリストが表示されます。さらに、下段にある「インキ設定」にてカスタムのスクリーン線数およびスクリーン角度の設定が行えます。

「インキ」セクション

使用しているインキの設定が確認できるようになっています。

インキ管理：「インキ管理」ボタンをクリックすると「インキ管理」のダイアログボックスが表示されます。各インキのND値や出力の順番の変更が可能です。さらに、色付きの紙に印刷する場合を考慮して、顔料比率の高いオペークインキの指定なども行えます。すべての特色をプロセスカラーに変更する場合もここで行います。

オーバープリント処理：多くのデスクトッププリンターではオーバープリントをサポートしていないため、このオプションを選択することで、オーバープリントの効果をシミュレーションすることができます。ただし「オーバープリント処理」を選択すると、印刷時に特色はプロセスカラーに変換されます。ドキュメントをRIPで色分解したり、最終出力したりする予定がある場合、このオプションは選択しないでください。

グラフィックパネル

ここでは、ビットマップ画像、EPSグラフィック、PDFページをPostScriptプリンターで最も効率よく印刷するためのさまざまなオプションが用意されています。イメージ解像度、フォント、グラデーションをどのように扱うかなどを指定します。また、プリンターにフォントをダウンロードする方法も指定することができます。選択したオプションに応じて、出力されるPostScriptファイルの容量が決まります。



「画像」セクション

EPSグラフィックまたはPDFページなどの高解像度画像を配置しているドキュメントを印刷する場合、最良の印刷結果を得るためには、解像度やラスタライズ設定などを調整する必要があります。

解像度：プリンターまたはファイルへ送るビットマップ画像データの品質を制御します。

すべて：最高解像度（画像に設定されている解像度）のデータがプリンターまたはファイルへ送られます。商業用印刷や、特色を含む黒と白のテキストのようなコントラスト



の強いグレースケールまたはカラー画像の印刷に適していますが、最も多くのディスク容量を必要とします。

サブサンプリングを最適化する：出力機器の最高解像度で最適化された十分な画像データが送られます。高解像度の画像をデスクトッププリンターで校正刷りする場合などは、このオプションを選択します。

プロキシ：配置した画像の画面表示用のビットマップデータが送られます。画面プレビュー程度の品質で出力を行うため、印刷時間は短縮されます。

なし：印刷時にすべての画像データを除いて出力します。画像部分を×印の付いたグラフィックフレームに置き換えて、印刷時間を短縮します。グラフィックフレームは、配置したグラフィックと同じサイズなので、サイズと位置関係は確認することができます。

「フォント」セクション

プリンターへどのようにフォントをダウンロードするかを管理するオプションです。フォントがコンピュータのハードディスクにインストールされている場合、印刷時にはそれらのフォントを必要に応じてダウンロードされます。

ダウンロード：プリンターへのフォントのダウンロードの方法を制御します。

なし：PostScript ファイルに記述されているフォントへの参照だけが、RIP やポストプロセッサにダウンロードされます。このオプションは、フォントが常駐しているプリンターの場合に適しています。TrueType フォントは、フォントの PostScript 名に従って印刷に使用するフォントが指定されます。ただし、すべてのアプリケーションがこれらの名前を認識するとは限りません。TrueType フォントを正しく印刷するには、フォントをダウンロードする他のオプションを選択してください。

完全：プリンタージョブの最初にドキュメントで要求されるすべてのフォントがダウンロードされます。環境設定ダイアログボックスで指定した字形（グリフ）数の最大数より多くのサブセットフォントが自動的にダウンロードされます。

サブセット：使用されている字形だけがダウンロードされます。字形はページごとにダウンロードされます。このオプションは、1 ページのドキュメント、またはほとんどテキストのない短いドキュメントで使用する時、PostScript ファイルをより早く、より小さく書き出すことができます。

PPD フォントダウンロード：プリンターの RIP に、印刷に必要なフォントが常駐フォントとしてある場合でも、PPD ファイルの記述内にある、すべてのフォントをダウンロードして印刷します。即ち、コンピュータ内にあるフォントのアウトラインが印刷時に常に使用されます。これにより、コンピュータとプリンター間でのフォントのバージョンの不整合による問題は起こらなくなります。

PostScript レベル：PostScript 対応の出力機器のインタープリタとの互換性レベルを指定します。出力デバイスの PostScript レベルに合わせて選択してください。

データ形式：コンピュータからプリンターへ送信される画像データのエンコード方式を指定します。「ASCII」を選択すると、ASCII テキストとして送信されます。ASCII は、古いネットワークやパラレル接続のプリンターと互換性があり、複数のプラットフォームで使用するグラフィックのためには最良の選択です。「バイナリ」を選択すると、バイナリコードとして書き出されます。バイナリは ASCII よりコンパクトなデータですが、すべてのシステムとは互換性がない可能性があります。

カラーマネジメントパネル

以下のオプションを使用する場合は、「編集」→「カラー設定」ダイアログボックスでカラーマネジメント用に書類を設定しておく必要があります。

「プリント」セクション

ドキュメント：ドキュメントのプロファイルの名前を表示します。ドキュメントにプロファイルが埋め込まれていない場合は、カラー設定ダイアログボックスで指定されたプロファイルが表示されます。「InDesignでカラーを決定」を選択している場合は「プリンタープロファイル」でプリンターのプロファイルを設定します。

校正：プリプレス用プリンターなど、他のデバイスでどのように出力されるかをエミュレートしてドキュメントをプリントします。校正プロファイルには、シミュレートするデバイスへのカラー変換に使用されるプロファイルの名前が表示されます。これは、「表示」メニュー→「校正設定」コマンドで指定します。

「オプション」セクション

カラーの処理：カラーマネジメントを使用する際にアプリケーションで行うか、プリントデバイスで行うかを決定します。

InDesignでカラーを決定：このワークフローでは、アプリケーションがカラー変換をすべて行い、出力機器に固有のカラーデータを生成します。アプリケーションは、割り当てられたカラープロファイルを使用して色を出力機器の色域に変換し、変換後のカラー値を出力機器に送信します。

PostScriptプリンターでカラーを決定：このワークフローでは、アプリケーションはカラー変換を行いませんが、カラー変換に必要な情報をすべて出力機器に送信します。

プリンタープロファイル：使用するプリンターと用紙の種類に応じたプロファイルを選択します。

CMYK番号を保持：このオプションをオフにすると、すべてのカラー番号がカラー変換対象になります。オンにすると、プロファイルが埋め込まれていないCMYKオブジェクトおよびネイティブオブジェクト（ラインアートや文字）はカラー変換の対象になりません。出力デバイスのプロファイルと異なるプロファイルを使用する画像は変換されます。

紙色をシミュレート：目的のデバイスで出力した時の見た目をシミュレートします。



詳細パネル

このパネルでは、OPIを使用した場合の設定や透明効果の設定ダイアログです。

「OPI」セクション

OPIオプションを使用すると、画像データがプリンターやファイルに送信される時に、OPIサーバで後処理用のOPIリンク（コメント）だけを残し、形式によって配置した画像を選択して除外することができます。

OPI画像の置換：出力時に低解像度のEPSプロキシ画像を高解像度画像に置き換えます。OPI画像の置換で作業するには、EPSファイルは低解像度のプロキシ画像を高解像度画像にリンクするOPIコメントを含んでいる必要があります。InDesign CCは、OPIコメントでリンクされた画像にアクセスします。高解像度のバージョンが使用できない場合、OPIリンクを保持して、低解像度プロキシでファイルに書き出します。以降のワークフローでOPIサーバがリンク画像を置換するようにするには、このオプションの選択を解除します。

OPIを無視：画像データをプリンターやファイルに送るときに、OPIサーバで後処理用のOPIリンク（コメント）だけを残し、指定した形式と異なる配置した画像（EPS、PDF、ビットマップ画像）を印刷時に除外します。コメントは、OPIサーバ上で高解像度画像の保存場所を見つめるために必要な情報を含んでいます。InDesignはコメントを含んでいるだけなので、



出力・印刷会社は置換時にサーバ上にある元の高解像度画像にアクセスする必要があります。このオプションは、埋め込まれた画像には適用されません。

「透明の分割・統合」セクション

プリセット: あらかじめ、3つの定義済みの透明の分割・統合プリセットが用意されています。これらの設定はドキュメントでの使用の意図によって、ラスターライズされた透明領域に適切な解像度で統合の品質とスピードに適合するように設定されています。

低解像度: モノクロのデスクトッププリンターで、すばやく校正刷りを印刷したり、Web 出版や SVG に書き出すドキュメントに使用します。

中解像度: デスクトップ校正やオンデマンドドキュメントをPostScriptカラープリンターでの印刷する場合に使用します。

高解像度:最終的に商業印刷での出力や色分解校正のような高品質の校正刷りに使用します。

スプレッドオーバーライドを無視: ページパネルサブメニューのスプレッドの単層化にて、各スプレッドごとに設定した透明統合スタイルを無効にして、プリセットで選択したスタイルをドキュメント上のすべての透明に反映させるために使用します。

概要パネル

ここでは、選択しているデバイスや、他のダイアログで設定した内容を一覧表示で見ることができます。印刷を行う前に、出力設定を確認し必要ならば設定の調整を行ってください。

概要を保存：結果をテキスト形式で書き出すこともできます。

Illustrator CCの場合



一般パネル

プリントダイアログボックスの「一般」オプションを使用すると、プリントするページと部数の指定、用紙のサイズとアートワークの方向の設定、書類の拡大・縮小、プリントまたは色分解するレイヤーの選択を行えます。

「一般」セクション

アートボード:アートワークを印刷する場合、ここでプリントするページ(アートボード)を指定します。

すべて:すべてのアートボードがプリントされます。

範囲: アートボード範囲を入力します。連続するアートボードの範囲は、数字と数字の間をハイフンで区切って入力し、連続しないページまたは範囲は、コンマで区切って入力します。

アートボードを無視: 複数のアートボードがある場合、1 ページに集約して印刷します。

白紙をプリントしない:アートワークが含まれていないアートボードはすべて無視されます。

部数: プリントする部数を指定します。

丁合い:1部全体をプリントしてから、2部目をプリントします。このオプションが選択されていない場合、1ページが全部数分プリントされてから、次のページが全部数分プリントされます（以降のページも同様です）。

逆順で印刷: 逆の順序でアートボードをプリントします。



「オプション」セクション

プリントするレイヤー: プリントするレイヤーを指定します。

表示中でプリント可能なレイヤー:表示されているプリント可能なレイヤー、つまり、コンポジットの校正を作成するときにプリントされるレイヤーのみがプリントされます。

表示中のレイヤー:表示されているレイヤーのみがプリントされます。

すべてのレイヤー：すべてのレイヤーがプリントされます。

拡大・縮小しない：拡大・縮小を行いません。

用紙サイズに合わせる：書類を自動的に拡大・縮小して、用紙に合わせます。拡大・縮小率は、選択した PPD で定義されているプリント可能範囲によって決まります。

指定倍率:「幅」テキストボックスおよび「高さ」テキストボックスがアクティブになり、数値が入力できるようになります。

縦横の比率を固定ボタン：書類の現在の幅と高さの比率を維持します。

幅:「指定倍率」を選択した場合に、幅を指定します。

高さ:「指定倍率」を選択した場合に、高さを指定します。

設定内容パネル

プリント用バウンディングボックス（プリント範囲）を基準にして、書類上にプリンターのマークの位置が設定され、アートワークのプリント可能範囲およびアートワーク上にあるプリントされない部分（方向線など）が指定されます。

また、「セットアップ」パネルでは、プリント可能範囲またはアートワークが配置される最初のページを指定できます。例えば、フィルムまたはプリントするページにアートワークが適切に収まるように、アートワークの配置を変更できます。



トリミング: アートボードをアートボードで切り抜くか、書類内の全アートワークのバウンディングボックスで切り抜くか、定義されたトンボで切り抜くかを指定します。

「オプション」セクション

配置: 正方形のいずれかをクリックすると、プリント可能範囲の原点または配置される最初のページが指定されます。

原点 X: X (水平) 軸方向の原点を指定します。

原点 Y: Y (垂直) 軸方向の原点を指定します。

タイル: ページをどのように区別するかを指定します。

1ページのみ:1ページのみを表示およびプリントします。

用紙サイズで区ける：アートボード内に収まるページ数で分割します。部分的にしか表示またはプリントされないページは作成されません。

プリント可能範囲で区切る：すべてのアートワークをプリントできるように、アートボードを必要なセクション数で分割します。

重なり:「用紙サイズで区別ける」を選択した場合、「重なり」オプションに値を設定してページが重なり合う部分を指定します。

トンボと裁ち落としパネル

ダイアログボックスには次の設定があります。

「トンボ」セクション

すべてのトンボとページ情報をプリント：プリンターマークを一度にすべて選択します。



トンボ：ページをトリミングする位置を定義するための水平と垂直の細い罫線（ヘアライン）を追加します。トンボは、色分解出力した各色版の位置を正確に見当合わせするために使用されます。

レジストレーションマーク：カラー書類内の各色版を正しく重ねるために、ページ範囲の外側に小さな「ターゲット」を追加します。

カラーバー：CMYK インキおよび10%単位のグレーの濃度を表す小さな正方形を追加します。このマークは、出力センターや印刷会社が印刷機のインキ濃度を調節するために使用します。

ページ情報：用紙、またはフィルムの各シートにファイル名、プリントアウトの日時、スクリーン線数、スクリーン角度およびカラー名がラベルとして追加されます。ラベルは画像の最上部にプリントされます。

種類：西洋式トンボと日本式トンボがあります。

太さ：トンボの線幅を指定します。

オフセット：トンボとアートワーク間の距離を指定します。トンボが裁ち落とし上に配置されないようにするには「オフセット」に「裁ち落とし」より大きい値を入力します。

「裁ち落とし」セクション

天、地、左、右：0～25.4ミリの範囲で、裁ち落としマークの配置を指定します。

：このアイコンをクリックすると「天」「地」「左」「右」に同じ値が入力されます。



出力パネル

ダイアログボックスには次の設定があります。

色分解：カラー画像のプリント用に「コンポジット」、「色分解 (Illustrator)」、「色分解 (In-RIP)」のいずれかを指定できます。なお「色分解 (In-RIP)」オプションは、PostScript 3 プリンターを使用し、PPD ファイルが In-RIP 色分解をサポートしている場合にのみ使用できます。

膜面：感光面を正面から見たときの種類を、「上 (正像)」または「下 (正像)」のいずれかで指定できます。種類を変更すると、画像が反転します。

画像：「ポジ出力」または「ネガ出力」のいずれかを指定します。

プリンター解像度：あらかじめ設定された、選択可能なハーフトーンスクリーン線数とプリンター解像度の組み合わせが表示されます。

オーバープリントブラック：ブラックをオーバープリントするかどうかを指定します。

すべての特色をプロセスカラーに変換：すべての特色をプロセスカラーに変換するかどうかを指定します。「インキオプション」の下に一覧表示されているすべての特色の横に、4色分解処理アイコン  が表示されます。

インキオプション：あらかじめ設定されているプリンター解像度以外を指定する必要がある場合は、各色版のカスタムの解像度を指定できます。ただし、角度と線数の初期設定値は、選択した PPD ファイルによって決まります。ハーフトーンスクリーンを独自に設定する場合は、最適な設定値について印刷・出力会社にお問い合わせください。



グラフィックパネル

プリントダイアログボックスの「グラフィック」パネルのオプションを使用すると、パス、フォント、PostScript 情報およびグラデーションオブジェクトやメッシュオブジェクトのプリント時の処理方法を指定できます。

「パス」セクション

平滑度：アートワークの曲線を近似する度合いを指定します。値を低く設定（「高画質」寄りに設定）すると、直線セグメントが小さくなって数が増え、曲線の近似精度が高くなります。値を高く設定（「速度」寄りに設定）すると、直線セグメントが長くなって数が減少し、曲線の精度は劣りますが、パフォーマンスが向上します。

「フォント」セクション

なし：InDesign CCの「なし」と同様

サブセットのみ：InDesign CCの「サブセット」と同様

すべてのフォント：InDesign CCの「完全」と同様

「オプション」セクション

PostScript：InDesign CCの「PostScript レベル」と同様

データ形式：InDesign CCの「データ形式」と同様

コンパチブルグラデーション&グラデーションメッシュプリント：グラデーションとグラデーションメッシュをプリント用に JPEG 形式に変換します。変換後のグラデーションおよびグラデーションメッシュの解像度は、透明の分割・統合設定を行う際に、「グラデーションとメッシュの解像度」オプションで設定します。

カラーマネジメントパネル

以下のオプションを使用する場合は、「編集」→「カラー設定」ダイアログボックスでカラーマネジメント用に書類を設定しておく必要があります。



「プリント方法」セクション

ドキュメントのプロファイル：ドキュメントプロファイルの名前を表示します。ドキュメントに埋め込まれたプロファイルが無い場合は、カラー設定ダイアログボックスで指定したプロファイルが表示されます。

カラー処理：カラーマネジメントをアプリケーション側とプリンター側のどちらで実行するかを決定します。

Illustrator のカラー設定：プリント時にアプリケーション側でカラー管理する場合に選択します。外観を保持するために、選択したプリンターに適したカラー値への必要に応じて実行されます。

PostScript のカラー設定：プリント時にプリンター側でカラー管理する場合に選択します。PostScript プリンターはドキュメントのカラー値を変更します。

プロファイル：使用するプリンターと用紙の種類に応じたプロファイルを選択します。

マッチング方法：カラーを目的のカラー空間に変換する方法を指定します。ほとんどの場合、初期設定のマッチング方法を使用するのが最善です。

CMYK カラー値を保持：(CMYK 出力の場合) このオプションをオフにすると、すべてのカラー値がカラー変換の対象になります。オンにすると、プロファイルが埋め込まれていない CMYK オブジェクトおよびネイティブオブジェクト (ラインアートや文字) はカラー変換の対象になりません。出力デバイスのプロファイルと異なるプロファイルを使用する画像は変換されます。

詳細パネル

詳細設定パネルのオプションを使用すると、低解像度のプリンター、一部の非PostScript プリンター、PostScript プリントとビットマッププリントの両方をサポートするプリンターでプリントす





る場合に、アートワークをビットマップ画像としてプリントできます。 また、オーバープリントと透明の処理を指定できます。

ビットマッププリント：書類をビットマップ画像としてプリントします。 このオプションは、使用するプリンターのプリンタードライバーがビットマッププリントをサポートしている場合にのみ使用できます。 低解像度プリンター、非PostScriptプリンター、およびビットマッププリントをサポートするプリンターで、スムーズな陰影やグラデーションなどの複雑なオブジェクトを含む書類をプリントする場合は、このオプションが便利です。 プリントの速度は低下することがありますが、エラーが発生する可能性は低くなります。

「オーバープリントおよび透明の分割・統合オプション」セクション

オーバープリント：オーバープリントの処理方法を指定します。

保持：オーバープリントが保持されます。

シミュレート：コンポジット出力で、オーバープリントのアピランスが保持されます。

破棄：属性パネルで設定した「塗りにオーバープリント」や「線にオーバープリント」は、コンポジットに反映されません。

設定：あらかじめ定義された透明の分割・統合設定が用意されています。 各設定は、書類の用途に応じて、透明部分のラスター化に適した解像度と、それに見合った分割・統合処理の品質と速度が設定されるように設計されています。 設定の内容は、InDesign CCの「透明の分割・統合」セクションの「プリセット」と同様です。 必要であれば、カスタムボタンをクリックして、既存の設定を基にして新規設定の作成が可能です。



設定内容パネル

プリント前にプリント設定を表示し、その後必要に応じて調整できます。

オプション：プリント設定が一覧表示されます。 リスト項目の横にある三角形をクリックして、詳細を表示します。

警告：特色、オーバープリント、分割・統合処理の必要な領域、色域外のカラーなどに関して、確認が必要なすべての特記事項が表示されます。

設定内容を保存：設定内容をテキストファイルで保存します。 設定内容を保存するには、「設定内容を保存」をクリックし、名前と場所を入力して、「保存」をクリックします。

プリント設定の合理化：プリントプリセット



特定のデバイス用にあらかじめ設定しておくことができる名前付きのプリントプリセットが用意されており、これを使用することにより、時間を節約し、ミスを減らすことができます。 あらかじめ定義されたプリント設定はスタイルのように機能するため、毎回同じプリントオプションを適用することができます。

印刷・出力会社では、自社で扱っているすべてのデバイス用にこれらの設定を作成しておき、一般的なプリント作業を自動化できます。 デザイン会社では、校正用のプリンターごとにプリントプリセットを定義しておく、各デバイスで通常使用するオプションを簡単に設定できます。

これにより、重要なオプションが誤って設定されている場合によく発生する問題の調査の多くが削減されます。 また、プリント工程も合理化され、効率的で確実なワークフローを実現できます。 一旦プリントプリセットが設定できたら、他のコンピュータにこのプリントプリセットを簡単に共有できます。 共有したい設定を保存し、書き出した設定を「プリントプリセット」で読み込んでください。



Adobe Creative Cloud



Adobe Illustrator CC



Adobe InDesign CC



Adobe Photoshop CC



Adobe Acrobat XI Pro

アドビ システムズ 株式会社 〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー www.adobe.com/jp

この冊子に記載の情報は、2014年7月現在の情報です。内容に関しては予告なく変更される場合がございますので、あらかじめご了承ください。

Adobe, Adobe PDF, Adobeロゴ, Acrobat, Adobe Bridge, Adobe Illustrator, Adobe InDesign, およびAdobe Photoshopは、Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社) の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。Mac, Macintoshは、米国および他の国々におけるApple Inc.の登録商標です。インテルおよびPentiumは、アメリカ合衆国および他の国におけるインテルコーポレーションおよび子会社の登録商標または商標です。
©2014 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved. ASJST686 6/07

協力: 大日本スクリーン製造株式会社

